

学科		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位/時間	担当教員
看護学概論	講義	1年次前期	1単位/30時間	専任教員
目的:1. 看護の歴史的変遷や理論を学び、看護の機能、看護の活動の場について学ぶ 2. 保健医療チームの一員として、看護の対象である人間の生活と健康、看護の役割を学ぶ 目標:①看護の概念や歴史的変遷や看護論を通して理解できる ②看護の対象を生活者として健康や環境と関連づけ総合的に理解する				
評価方法:1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)				
回	月/日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	/ ()	看護とは	ナイチンゲール 序章～	
2	/ ()	看護の概念(看護)	1. 看護とは 1)看護の変遷 2)看護の主要概念 3)近代看護 4)	
3	/ ()	看護の概念(看護)	1)看護の変遷	
4	/ ()	看護の概念(看護)	2)看護の主要概念	
5	/ ()	看護の概念(看護)	3)近代看護 看護の理論家たち	
6	/ ()	看護の対象(人間)	2. 看護の対象としての人間 1)統合体としての人間 2)人間と欲求	
7	/ ()	看護の対象(人間)	1)人間と環境 2)ライフサイクル 3)患者と家族	
8	/ ()	看護の対象(人間)	4)看護職者の就業状況と継続教育 5)看護職の養成制度の課題	
9	/ ()	看護における倫理	1)現代社会と倫理 2)医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理	
10	/ ()	看護における倫理	3)看護実践における倫理問題への取り組み	
11	/ ()	健康の概念(健康)	3. 人間の健康 1)健康の定義 2)健康の段階と連続性	
12	/ ()	健康の概念(健康)	3)健康に関する諸要因 4)生涯の理解 5)基本的権利としての健康	
13	/ ()	看護の機能と役割(環境)	4. 看護の機能と役割 5. 看護師としての責任と行動	
14	/ ()	看護の国際協力(環境)	6. 看護の国際協力 1)世界の健康問題の現状 2)国際看護の基本理念 3)国際協力 4)異文化	
15	/ ()	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト:系統看護学講座 専門分野 I 看護学概論 基礎看護学① (医学書院)				
備考:臨床経験・教育経験を踏まえ、看護の概要について教授する。				

学科		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位/時間	担当教員
臨床看護学総論	講義	1年次後期	1単位/30時間	外部講師
<p>目的:看護の基本である多様な健康上のニーズを持つあらゆる発達段階の人々に基本的な看護学の知識や技術を統合し、応用するプロセスを学ぶ</p> <p>目標:基礎的知識や技術が実践でどのように統合されるのか対象のライフサイクル、生活の場、健康状態、症状、治療と関連させて理解する</p>				
評価方法:1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)				
回	月/日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	/ ()	健康上のニーズを持つ対象者と家族への看護	【ライフサイクルからとらえた対象者と家族の健康上のニーズ】 ①人のライフサイクルからとらえた看護 ②子どもの理解と看護 ③成人の理解と看護 ④高齢者の理解と看護 ⑤親になる人の理解と看護	
2	/ ()	健康上のニーズを持つ対象者と家族への看護	【家族の機能からとらえた対象者と家族の健康上のニーズ】 ①家族の理解 ②家族の健康上のニーズ	
3	/ ()	健康上のニーズを持つ対象者と家族への看護	【生活と療養の場からとらえた対象者と家族の健康上のニーズ】 ①生活と療養の場とは ②病院・施設における看護 ③在宅における看護	
4	/ ()	健康状態の経過に基づく看護	①健康状態と看護 ②健康の維持・増進を旨とする看護 ・健康の維持・増進を旨とする看護の特徴 ・健康の維持・増進を旨とする人々のニーズ ・健康の維持・増進を旨とする人々への看護援助	
5	/ ()	健康状態の経過に基づく看護	③急性期における看護 ・急性期の特徴 ・急性期の患者ニーズ ・急性期にある患者への看護援助	
6	/ ()	健康状態の経過に基づく看護	④慢性期における看護 ・慢性期の特徴 ・慢性期の患者ニーズ ・慢性期にある患者への看護援助	
7	/ ()	健康状態の経過に基づく看護	⑤リハビリテーション期における看護 ・リハビリテーション期の特徴 ・リハビリテーション期の患者のニーズ ・リハビリテーション期にある患者への看護援助	
8	/ ()	終末期における看護	⑥終末期における看護 ・終末期の特徴 ・終末期の患者のニーズ ・終末期にある患者への看護援助	
9	/ ()	主要な症状を示す対象者への看護	①呼吸に関連する症状を示す対象者への看護 ②循環に関連する症状を示す対象者への看護 ③栄養や代謝に関連する症状を示す対象者への看護	

10	/ ()	主要な症状を示す対象者への看護	④排泄に関連する症状を示す対象者への看護 ⑤活動や休息に関連する症状を示す対象者への看護 ⑥認知や知覚に関連する症状を示す対象者への看護	
11	/ ()	主要な症状を示す対象者への看護	⑦コーピングに関する連症状を示す対象者への看護 ⑧安全や生体防御機能に関連する症状を示す対象者への看護 ⑨安楽に関連する症状を示す対象者への看護	
12	/ ()	治療・処置を受ける対象者への看護	①輸液療法を受ける対象者への看護 ②化学療法を受ける対象者への看護	
13	/ ()	治療・処置を受ける対象者への看護	③放射線療法を受ける対象者への看護 ④手術療法を受ける対象者への看護	
14	/ ()	治療・処置を受ける対象者への看護	⑤集中治療を受ける対象者への看護 ⑥創傷処置／創傷ケアを受ける対象者への看護 ⑦身体侵襲を伴う検査・治療を受ける対象者への看護	
15	/ ()	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト: 系統看護学講座 専門分野 臨床看護総論 基礎看護学④ (医学書院)				
備考: 病態生理に関する知識や看護学概論、基礎看護技術の内容を基盤に、健康障害をもつ対象者を理解し、健康状態に応じた考え方を学び、臨地実習や各領域看護学への学習に活用できることを教授する。				

学科		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位/時間	担当教員
基礎看護学方法論 I	講義	1年次前期	1単位/30時間	専任教員
目的:1. 看護技術とは何かを考え、看護技術の特徴、範囲、要素について学ぶ 2. 看護実践のあらゆる場面において基盤となる共通技術のコミュニケーション、ヘルスアセスメント、学習支援について科学的根拠に基づいて学ぶ 目標:①あらゆる場面に共通するコミュニケーションについて理解し活用できる ②あらゆる場面に共通するヘルスアセスメントについて理解し活用できる ③あらゆる場面に共通する学習支援について理解し活用できる				
評価方法:1.筆記試験(70%) 2.看護技術試験(20%) 3.授業への参加態度・課題提出(10%)				
回	月/日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	/ ()	看護技術を学ぶにあたって	①技術とはなにか ②看護技術の特徴 ③看護技術の範囲 ④看護技術を適切に実践するための要素 ⑤看護技術の発展と修得のために	
2	/ ()	コミュニケーション	①コミュニケーションの意義と目的 ・コミュニケーションとは ・医療におけるコミュニケーション ②コミュニケーションの構成要素と成立過程 ・コミュニケーション手段 ・構成要素と成立 ③関係構築のためのコミュニケーションの基本 ・接近的コミュニケーションの原理 ・接近的行動と非接近的行動 ④コミュニケーション演習	
3	/ ()	コミュニケーション	⑤効果的なコミュニケーションの実際 ・傾聴の技術 ・情報収集の技術 ・説明の技術 ・アサーティブネス ⑥コミュニケーション障害への対応 ・コミュニケーションに障害のある人の特徴 ・言語的コミュニケーションに必要な身体機能 ・コミュニケーション障害がある人への対応 ⑦パーソナルスペースについて	
4	/ ()	ヘルスアセスメント	①ヘルスアセスメントとは ・ヘルスアセスメントが持つ意味 ・ヘルスアセスメントにおける観察 ・ヘルスアセスメントにおける重要な視点 ②健康歴とセルフケア能力のアセスメント ・問診(面接)の技術 ・健康歴聴取の目的 ・健康歴聴取の実際 ・セルフケア能力のアセスメント ・情報の整理	
5	/ ()	ヘルスアセスメント バイタルサイン測定の方法	③全体の概観 ・フィジカルアセスメントに必要な技術 ・全身状態・全体印象の把握 ・バイタルサインの観察とアセスメント ・計測 ④一体温、脈拍、呼吸、血圧測定	

6	/ ()	バイタルサイン測定 タスクトレーニング(実習室)	④-2体温、脈拍、呼吸	
7	/ ()	バイタルサイン測定 タスクトレーニング(実習室)	④-3血圧測定の実際	
8	/ ()	バイタルサイン測定 タスクトレーニング(実習室)	④-4体温、脈拍、呼吸、血圧測定一連の測定	
9	/ ()	バイタルサイン測定 タスクトレーニング(実習室)	看護技術試験(バイタルサイン測定)	
10	/ ()	ヘルスアセスメント ・領域別につながる系統的 フィジカルアセスメント概要	④-1系統的フィジカルアセスメント ・ケアにつながるフィジカルアセスメント ・呼吸器系のフィジカルアセスメント ・循環器系のフィジカルアセスメント	
11	/ ()	ヘルスアセスメント ・領域別につながる系統的 フィジカルアセスメント概要 ・心理・社会状態のアセスマ ント	④-2系統的フィジカルアセスメント ・乳房・腋窩のフィジカルアセスメント ・腹部のフィジカルアセスメント ・筋・骨格系のフィジカルアセスメント ・神経系のフィジカルアセスメント ・頭頸部と感覚器(眼・耳・鼻・口)のフィジカル アセスメント ⑤心理・社会状態のアセスメント	
12	/ ()	学習支援 講義 学習支援 学習支援の実際 (夏期休暇中の課題)	①看護における学習支援とは ・看護の中にある学習支援 ・「教育・指導」から「学習支援」へ ・看護師の権限としての学習支援 ・看護の学習支援技術の発展 ②健康に生きることを支える学習支援 ・健康戦略の変遷 ・さまざまな形で行われる学習支援 ③健康状態の変化に伴う学習支援 ・外来における学習支援 ・入院時の学習支援 ・退院時の学習支援 ④看護の中に含まれる学習支援 ・個人を対象とした学習支援 ・家族を対象とした学習支援 ・集団を対象とした学習支援 事例提示 個人指導パンフレットの資料作成	
13	/ ()	学習支援 シチュエーション・ベースド・ トレーニング (グループワーク)	⑤学習支援の実際・・・課題 夏期休暇中に個人ワークした課題についてまと める	
14	/ ()	学習支援 発表	グループ発表	
15	/ ()	テスト		
履修者へのコメント:自己学習の時間を有効に活用してください。 看護技術の試験および臨地実習に向けて、技術練習をしてください。				
使用テキスト:系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I 基礎看護学② (医学書院) 演習・実習に役立つ基礎看護技術 第4版 (ヌーヴェルヒロカワ)				
備考:臨床経験・教育経験を踏まえ、看護技術の概要・観察・技術の実際とフィジカルアセスメントを教授する。				

学科		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位/時間	担当教員
基礎看護学方法論Ⅱ	講義	1年次前期	1単位/30時間	外部講師 専任教員
目的:看護実践のあらゆる場面において基盤となる共通技術の感染防止の技術、安全確保の技術について科学的根拠に基づいて学ぶ				
目標:①あらゆる場面に共通する感染防止の技術について理解し活用できる ②あらゆる場面に共通する安全確保の技術について理解し活用できる				
評価方法:1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況・課題提出(10%)				
回	月/日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	/ ()	感染防止の技術① 感染の基礎知識	①感染防止の基礎知識 ・感染成立の条件 ・院内感染の防止 ②標準予防策(スタンダードプリコーション) ・標準予防策の基礎知識-(1) (衛生的な手洗い)	
2	/ ()	感染防止の技術①-1 タスクトレーニング(実習室)	標準予防策:衛生的な手洗い	
3	/ ()	感染防止の技術① 感染の基礎知識②	①標準予防策(スタンダードプリコーション) ・標準予防策の基礎知識-(2) 標準予防策:個人防護用具(PPE) ②感染経路別予防策 ・感染経路別予防策の基礎知識・実際	
4	/ ()	感染防止の技術①-2 タスクトレーニング(実習室)	標準予防策:個人防護用具(PPE)	
5	/ ()	感染防止の技術②	①洗浄・消毒・滅菌 ②無菌操作	
6	/ ()	感染防止の技術③ タスクトレーニング(実習室)	無菌操作の実際 ・滅菌手袋の装着 ・ガウンテクニック(滅菌ガウン) ・滅菌物の取扱い ・鉗子、鑷子の取扱い	
7	/ ()	感染防止の技術④ タスクトレーニング(実習室)	無菌操作の実際 ・滅菌手袋の装着 ・ガウンテクニック(滅菌ガウン) ・滅菌物の取扱い ・鉗子、鑷子の取扱い	
8	/ ()	感染防止の技術⑤	①感染性廃棄物の取り扱い ・感染性廃棄物の基礎知識 ・対策の実際 ②針刺し防止策 ③医療施設における感染管理	
9	/ ()	安全確保の技術 ・誤薬防止 ・チューブ類抜去防止 ・誤認防止	①安全確保の基礎知識 ②誤薬防止の基礎知識、DVD ・誤薬防止の実際 ③チューブ類の予定外抜去防止の基礎知識 ・チューブ類の予定外抜去防止の実際 ④患者誤認防止 ・患者誤認防止の方法、DVD	

10	/ ()	安全確保の技術 ・転倒、転落防止 ・薬剤、放射線曝露の防止	①転倒、転落防止 ・転倒、転落防止の基礎知識、DVD ・転倒、転落防止の実際 ②薬剤、放射線曝露の防止、DVD ・抗がん剤曝露の防止 ・放射線曝露の防止	
11	/ ()	特別講義 JR 東日本	・指差呼称の歴史 ・指差呼称をすることでなぜエラーが減るのか 1) 注意の方向付け 2) 多重課題の効果 3) あせり、いらいら 反応の防止 4) 指差呼称には記憶促進効果がある 5) 指示 書と対象物の照合確認でエラーが減少他	
12	/ ()	KYTトレーニング シチュエーション・ベースド・ト レーニング(グループワーク)	・グループワーク	
13	/ ()	KYTトレーニング シチュエーション・ベースド・ト レーニング(グループワーク)	・グループワーク	
14	/ ()	KYTトレーニング シチュエーション・ベースド・ト レーニング(グループワーク)	・グループワーク	
15	/ ()	テスト		
履修者へのコメント: 実習に向けて看護技術の自己学習をしてください。				
使用テキスト: 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 II 基礎看護学③ (医学書院) 演習・実習に役立つ基礎看護技術 第4版 (ヌーヴェルヒロカワ)				
備考: 臨床経験・教育経験を踏まえ感染防止の技術・安全確保の技術について科学的根拠に基づいて教授する。				

学科		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位/時間	担当教員
基礎看護学方法論Ⅲ	講義	1年次前期	1単位/30時間	専任教員
目的: 基本的な日常生活行動への援助技術である環境調整技術、活動休息技術、苦痛の緩和について対象の生活行動に配慮した援助技術を学ぶ 目標: ①環境調整技術について理解し活用できる ②活動・休息援助技術について理解し活用できる ③苦痛の緩和・安楽の確保の援助技術について理解し活用できる				
評価方法: 1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)				
回	月/日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	/ ()	環境調整技術	①援助の基礎知識 ・療養生活の環境	
2	/ ()	環境調整技術	②援助の基礎知識 ・病室の環境のアセスメントと調整	
3	/ ()	環境調整技術 シチュエーション・ベース ド・トレーニング (グループワーク)	③援助の実際 ・ベッド周囲の環境調整	
4	/ ()	環境調整技術 タスクトレーニング(実習室)	④援助の実際 ・病床を整える ・ベッド周囲の環境調整ー病室・病床の選択 ・リネン類の種類 ・ベッドメーカー/シーツのたたみ方	
5	/ ()	環境調整技術 タスクトレーニング(実習室)	⑤援助の実際 ・病床を整える ・ベッドメーカー/マットレス、マットレスパッド、下シーツの開き方および作成	
6	/ ()	環境調整技術 タスクトレーニング(実習室)	・ベッドメーカー / リネン交換	
7	/ ()	環境調整技術 タスクトレーニング(実習室)	・ベッドメーカー / リネン交換 ・テスト	
8	/ ()	活動・休息援助技術	①基本的活動の援助 ・基本的活動の基礎知識 /体位(レポート課題)	
9	/ ()	活動・休息援助技術	①基本的活動の援助 ・体位変換 /移動 /移乗・移送 DVD	
10	/ ()	活動・休息援助技術 タスクトレーニング(実習室)	①基本的活動の援助 体位 /体位変換	
11	/ ()	活動・休息援助技術 タスクトレーニング(実習室)	①基本的活動の援助 移乗・移送(ストレッチャー・車いす)	
12	/ ()	活動・休息援助技術	①睡眠と休息の援助 ・援助の基礎知識、援助の実際	
13	/ ()	苦痛の緩和・安楽の確保 の技術	①体位保持 ・演習: 体位保持、ポジショニング、罨法、冷罨法	
14	/ ()	苦痛の緩和・安楽の確保の 技術 ・温罨法 ・冷罨法 タスクトレーニング(実習室)	「苦痛の緩和・安楽確保の技術」 ・罨法 ・冷罨法	

15	/ ()	テスト	
<p>履修者へのコメント: 自己学習の時間を有効に活用してください。 看護技術の試験および臨地実習に向けて、技術練習をしてください。</p>			
<p>使用テキスト: 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 II 基礎看護学③ (医学書院) 演習・実習に役立つ基礎看護技術 第4版 (ヌーヴェルヒロカワ)</p>			
<p>備考: 臨床経験・教育経験を踏まえ環境調整・活動休息・苦痛の緩和の援助技術について教授する。</p>			

学科		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位/時間	担当教員
基礎看護学方法論Ⅳ	講義	1年次前期	1単位/30時間	専任教員
目的: 基本的な日常生活行動への援助技術である清潔・衣生活援助技術について対象の生活行動に配慮した援助、羞恥心に配慮した援助技術を学ぶ 目標: 清潔・衣生活援助技術について理解し活用できる				
評価方法: 1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%) 1・2を総合して判定する				
回	月/日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	/ ()	清潔の援助	清潔援助の基礎知識 ・皮膚粘膜の構造と機能 ・口腔の構造と機能 ・清潔援助の効果	
2	/ ()	清潔の援助	清潔援助の基礎知識 ・清潔援助の効果 ・患者状態に応じた援助の決定と留意点	
3	/ ()	清潔の援助 タスクトレーニング(実習室)	清潔援助の基礎知識と実際 ・入浴、シャワー浴の基礎知識 ・入浴、シャワー浴援助の実際	
4	/ ()	衣生活の援助	病床での衣生活の援助 ・衣服を用いることの意義 ・病衣の選び方	
5	/ ()	衣生活の援助 タスクトレーニング(実習室)	病床での衣生活の援助 ・病衣、寝衣の交換の援助の実際 ・点滴、ドレーン等を留置している患者の寝衣交換の援助の実際	
6	/ ()	清潔の援助 タスクトレーニング(実習室)	清潔援助の実際 ・全身清拭援助の実際(部分演習) ・安全な物品準備	
7	/ ()	清潔の援助 タスクトレーニング(実習室)	清潔援助の実際 ・全身清拭援助の実際(全身演習)	
8	/ ()	清潔の援助	清潔援助の基礎知識 ・洗髪、足浴、手浴援助の基礎知識	
9	/ ()	清潔の援助 タスクトレーニング(実習室)	清潔援助の実際 ・洗髪、足浴、手浴援助の実際	
10	/ ()	清潔の援助	清潔援助の基礎知識 ・陰部洗浄の基礎知識	
11	/ ()	清潔の援助 タスクトレーニング(実習室)	清潔援助の実際 ・陰部洗浄援助の実際	
12	/ ()	清潔の援助	清潔援助の基礎知識 ・整容の基礎知識	

13	/ ()	清潔の援助 タスクトレーニング(実習室)	清潔援助の実際 ・口腔ケア援助の実際	
14	/ ()	テスト	全身清拭・寝衣交換技術試験	
15	/ ()	テスト	筆記試験	
履修者へのコメント:実技テスト・臨地実習に向けて自己学習を活用してください				
使用テキスト:系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ (医学書院) 演習・実習に役立つ基礎看護技術 第4版 (ヌーヴェルヒロカワ)				
備考:臨床経験・教育経験を踏まえ清潔・衣生活の援助技術について教授する。				

学科		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位/時間	担当教員
基礎看護学方法論V	講義	1年次前期	1単位/30時間	専任教員
<p>目的:基本的な日常生活行動への援助技術である食事援助技術、排泄援助技術について、人間にとって口から摂取したものが、多くの臓器を通過し排泄するまでの一連の過程の意義理解した上での援助、羞恥心に配慮した援助方法学ぶ</p> <p>目標:①食事援助の技術について理解し活用できる ②排泄の援助技術について理解し活用できる</p> <p>評価方法:1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)</p>				
回	月/日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	/ ()	食事援助技術	①食事援助の基礎知識 ・栄養状態および食欲 ・摂食能力のアセスメント ・医療施設で提供される食事	
2	/ ()	食事援助技術	②食事介助 ・援助の基礎知識 ・援助の実際 ・食事介助の実際(DVD)	
3	/ ()	食事援助技術	③摂食・嚥下訓練 ・援助の基礎知識 ・援助の実際 ・摂食・嚥下訓練(DVD)	
4	/ ()	食事援助技術	④非経口的栄養摂取の援助 ・経管栄養法 ・中心静脈栄養法 ・経管栄養法/中心静脈栄養法(DVD)	
5	/ ()	食事援助技術 タスクトレーニング(実習室)	・食事介助(常食介助、水分摂取介助)	
6	/ ()	排泄援助技術 【課題提示】 【資料】	・自然排尿および自然排便の基礎知識 ・自然排尿および自然排便の介助の実際 ・自然排尿および自然排泄の介助の実際 課題:紙おむつに排泄してみる。(提出 月 日)	
7	/ ()	排泄援助技術 【DVD】 【資料】	・排泄行動が制限された患者への排泄の援助方法 ・トイレにおける排泄介助 ・ポータブルトイレでの排泄介助 ・床上排泄介助	
8	/ ()	排泄援助技術 タスクトレーニング(実習室)	排便を促す援助 ・便器、尿器による排泄	
9	/ ()	排泄援助技術【DVD】【資料】	排便を促す援助 ・排便を促す援助の基礎知識 ・浣腸(グリセリン浣腸、高圧浣腸)・摘便 DVD	
10	/ ()	排泄援助技術 タスクトレーニング(実習室)	排泄援助技術 ・臥床患者のパット交換(男女のモデルを実施)	
11	/ ()	排泄援助技術 タスクトレーニング(実習室)	排泄援助技術 ・臥床患者のおむつ交換(男女のモデルを実施)	
12	/ ()	排泄援助技術 タスクトレーニング(実習室)	排泄援助技術 ・陰部モデルを使用し、グリセリン浣腸を実施する。	

13	/ ()	排泄援助技術 【DVD】 デモンストレーション	排泄援助技術 DVD ・導尿(一時的導尿 持続的導尿) ・援助の基礎知識 援助の実際	
14	/ ()	排泄援助技術 【DVD】 デモンストレーション	排泄援助技術 DVD ・ストーマケア 援助の基礎知識 援助の実際	
15	/ ()	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト: 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 II 基礎看護学③ (医学書院) 演習・実習に役立つ基礎看護技術 第4版 (ヌーヴェルヒロカワ)				
備考: 臨床経験・教育経験を踏まえ、食事援助から排泄の援助技術を一連のメカニズムの意義を通じて教授する。				

学科		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
基礎看護学方法論VI	講義	1年次後期	1単位／30時間	専任教員
目的: 診断・治療過程に関わる援助方法である、呼吸・循環を整える技術、創傷管理技術について対象の心理や身体的状態を理解した上で援助方法学ぶ 目標: ①呼吸・循環を整える技術について理解し活用できる (第VII章) ②創傷管理援助技術について理解し活用できる (第VIII章)				
評価方法: 1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)				
回	月／日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	/ ()	第7章 呼吸・循環を整える技術	A酸素吸入療法 ①援助の基礎知識 ②援助の実際 ・中央配管方式 ・酸素ポンペ	
2	/ ()	第7章 呼吸・循環を整える技術	B排痰ケア ①排痰ケアの基礎知識 ②援助の実際 ・体位ドレナージ ・咳嗽介助	
3	/ ()	第7章 呼吸・循環を整える技術	C吸引 ①吸引の基礎知識 ②一時的吸引(口腔・鼻腔・気管内吸引) ③持続的吸引(気胸)	
4	/ ()	第7章 呼吸・循環を整える技術	D吸入 ①吸入の基礎知識 ②援助の実際	
5	/ ()	第7章 呼吸・循環を整える技術	E人工呼吸療法 ①援助の基礎知識 ②援助の実際	
6	/ ()	第7章 呼吸・循環を整える技術	F体温管理の技術 ①援助の基礎知識 ②援助の実際	
7	/ ()	第7章 呼吸・循環を整える技術	G末梢循環促進ケア ①援助の基礎知識 ②援助の実際	
8	/ ()	第8章 創傷管理技術	A創傷管理の基礎知識 1・創傷とその治癒 皮膚の構造と機能 ①皮膚の再生と瘢痕治癒 ②創傷治癒過程とそのメカニズム ③創汚染と感染創 ④創傷治癒形態	

9	/ ()	第8章 創傷管理技術	A創傷管理の基礎知識 2・創傷治癒のための環境づくり ①創傷環境調整 ②湿潤環境下における創傷治癒 ③創の消毒と洗浄	
10	/ ()	第8章 創傷管理技術	B創傷処置 1・創傷洗浄と創保護 外科手術創・ドレーン創 ①援助の基礎知識 ②援助の実際	
11	/ ()	第8章 創傷管理技術	B創傷処置 2・テープによる皮膚障害 ①援助の基礎 ②援助の実際 B創処置 3包帯法 ①援助の基礎 ②援助の実際	
12	/ ()	第8章 創傷管理技術	C褥瘡予防 ①援助の基礎 ②援助の実際	
13	/ ()	タスクトレーニング(実習室)	ドレッシング材を実際に貼付しよう フィルムドレッシング(カテリーブパッドマイルド) 伸縮包帯 ドレッシング材(実際に皮膚に貼る) 巻軸帯を用いて手腕や足を巻いてみよう	
14	/ ()	タスクトレーニング(実習室)	三角巾を用いて上肢の固定をしてみよう (肩関節脱臼予防) 弾性ストッキングをはかせてみよう 弾性ストッキングをはいてみよう	
15	/ ()	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト:系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 II 基礎看護学③ (医学書院) 演習・実習に役立つ基礎看護技術 第4版 (ヌーヴェルヒロカワ)				
備考:臨床経験・教育経験を踏まえ、対象の診断・治療過程の援助について心理・身体面を理解したうえで教授する。				

学科		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
基礎看護学方法論Ⅶ	講義・演習	1年次後期	1単位／30時間	外部講師 専任教員
目的:診断・治療過程に関わる援助方法である救命救急処置技術、症状・生体機能管理技術、診察・検査・処置の介助技術について対象の心理や身体的状態を理解した上で援助方法を学ぶ 目標:①救命救急処置技術について理解し活用できる ②症状・生体機能管理技術について理解し活用できる ③診察・検査・処置の介助技術について理解し活用できる				
評価方法:1.筆記試験(90%) 2.授業・演習への参加態度・状況、レポート提出(10%)				
回	月／日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	/ ()	救命救急処置技術	1. 救命救急処置の基礎知識 ・救急対応の考え方 ・急変時における初期対応 ・トリアージ	
2	/ ()	救命救急処置技術	・急変時における初期対応 ・トリアージ	
3	/ ()	救命救急処置技術	2. 心肺蘇生法 ・心肺蘇生法の基礎知識 ・一次救命処置の実際 ・二次救命処置について	
4	/ ()	救命救急処置技術	3. 止血法 ①援助の基礎知識 ②援助の実際 4. 院内急変時の対応 ①援助の基礎知識 ②援助の実際	
5	/ ()	症状・生体機能管理技術	1. 症状・生体機能管理技術の基礎知識 2. 検体検査 ①血液検査 ・ホルダー採血(真空管採血)法による静脈血採血 ・動脈血採血の介助 ・血糖測定	
6	/ ()	症状・生体機能管理技術	②尿検査 1) 援助の基礎知識 2) 援助の実際 ・検体の採取 ・尿試験紙検査法 ③便検査 1) 援助の基礎知識 2) 援助の実際(採便法) ④喀痰検査 1) 援助の基礎知識 2) 援助の実際	
7	/ ()	症状・生体機能管理技術	3. 生体情報のモニタリング ①心電図モニター ②SpO2モニター ③血管留置カテーテルモニター	

8	/ ()	診察・検査・処置における技術	1. 診察の介助 2. 検査・処置の介助 ①X線撮影 ②コンピュータ断層撮影(CT) ③磁気共鳴画像(MRI) ④内視鏡検査	
9	/ ()	診察・検査・処置における技術	⑤超音波検査 ⑥心電図検査 ⑦肺機能検査(スパイロメトリー) ⑧核医学検査	
10	/ ()	診察・検査・処置における技術	3. 穿刺の介助 ・胸腔穿刺 ・腹腔穿刺	
11	/ ()	診察・検査・処置における技術	3. 穿刺の介助 ・腰椎穿刺 ・骨髄穿刺	
12	/ ()	症状・生体機能管理技術 タスクレーニング(実習室)	採血(直針)	
13	/ ()	症状・生体機能管理技術 タスクレーニング(実習室)	採血(翼状針)	
14	/ ()	症状・生体機能管理技術 タスクレーニング(実習室)	採血(真空管採血)	
15	/ ()	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト: 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 II 基礎看護学③ (医学書院) 演習・実習に役立つ基礎看護技術 第4版 (ヌーヴェルヒロカワ)				
備考: 臨床経験・教育経験を踏まえ、看護技術の概要・観察・技術の実際とフィジカルアセスメントを教授する。				

		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位/時間	担当教員
基礎看護学方法論Ⅷ	講義・演習	2年次前期	1単位/30時間	専任教員
目的:対象に応じた与薬の援助方法を学ぶ				
目標:①安全な与薬の原則・方法を理解する ②薬剤の種類や性質を理解する ③薬剤の管理、保管方法について理解する ④与薬の技術について理解し活用できる				
評価方法:1.筆記試験(90%) 2.授業・演習への参加態度・状況、レポート提出(10%)				
回	月/日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	/ ()	与薬の基礎知識	1. 薬剤の基本的性質 ・薬剤の吸収経路 ・薬剤の体内動態と薬効 ・薬剤と保管と管理	
2	/ ()	与薬の基礎知識	2. 与薬時の看護者の役割 1) 診療補助業務における看護師の責任 2) 与薬を安全、確実に行うためのルール ①誤薬の防止 ②患者誤薬の防止 ③情報伝達と共有管理	
3	/ ()	経口与薬・口腔内投与	3. 与薬の援助方法 1) 内服薬、外用 2) 与薬と安全 ①経口与薬 ・援助の基礎知識 ・援助の実際 ②吸入 ・援助の基礎知識 ・援助の実際	
4	/ ()	与薬の技術 タスクトレーニング(実習室)	与薬・点眼	
5	/ ()	与薬の技術	③点眼 ・援助の基礎知識 ・援助の実際 ④点鼻・点耳 ・援助の基礎知識 ・援助の実際 ⑤経皮的与薬 ・援助の基礎知識 ・援助の実際	
6	/ ()	与薬の技術	⑥経皮的与薬 ・援助の基礎知識 ・援助の実際 ⑦直腸内与薬 ・援助の基礎知識 ・援助の実際	
7	/ ()	注射	1. 注射の基礎知識 ①技術の概要 ②注射の方法の種類 ③注射筒と注射針 ④実施上の責任	

8	/ ()	注射	⑤注射の準備 ・薬液吸い上げのための準備 ・薬液の吸い上げ(アンプル) ・薬液の吸い上げ(バイアル) ・高カロリー輸液や抗がん薬の準備	
9	/ ()	注射	2. 注射の実施方法 1) 皮下注射 2) 皮内注射 3) 筋肉注射	
10	/ ()	注射	4) 静脈内注射 ①ワンショット ②点滴静脈内注射 ・翼状針による点滴静脈内注射 ・静脈留置針による点滴静脈内注射 ・輸液ラインと静脈留置針の交換時期 ・輸液速度の調整 ・点滴静脈内中注射による混注	
11	/ ()	注射	③中心静脈カテーテル留置の介助 ・中心静脈カテーテルと輸液ライン交換 ・カテーテル関連血流感染の基礎知識	
12	/ ()	輸液管理	1. 援助の基礎知識 ・輸液の副作用 2. 援助の実際	
13	/ ()	与薬の技術 タスクトレーニング(実習室)	筋肉注射	
14	/ ()	与薬の技術 タスクトレーニング(実習室)	静脈内注射	
15	/ ()	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト: 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 II 基礎看護学③ (医学書院) 演習・実習に役立つ基礎看護技術 第4版 (ヌーヴェルヒロカワ)				
備考: 臨床経験・教育経験を踏まえ看護技術の概要・観察・技術の実際とフィジカルアセスメントを教授する。				

学科		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
救命救急処置	講義・演習	2年次前期	1単位／30時間	外部講師 専任教員
目的:①看護師として緊急時に必要な救命救急処置技術を理解した上で援助方法を学ぶ ②看護実践のあらゆる場面において死の看取りの援助について科学的根拠に基づいて学ぶ 目標:①救急処置、応急処置に必要な知識の習得をする ②あらゆる場面に共通する死の看取りの援助について理解し活用できる				
評価方法:1.筆記試験(90%) 2.授業・演習への参加態度・状況、レポート提出(10%)				
回	月／日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	/ ()	BLS講習 タスクトレーニング(実習室)	①救命救急処置の基礎知識 ・救急対応の考え方 ・急変時における初期対応 ・トリアージ	
2	/ ()	BLS講習 タスクトレーニング(実習室)	①救命救急処置の基礎知識 ・救急対応の考え方 ・急変時における初期対応 ・トリアージ	
3	/ ()	BLS講習 タスクトレーニング(実習室)	②心肺蘇生法 ・心肺蘇生法の基礎知識 ・一次救命処置の実際 ・二次救命処置について	
4	/ ()	BLS講習 タスクトレーニング(実習室)	②心肺蘇生法 ・心肺蘇生法の基礎知識 ・一次救命処置の実際 ・二次救命処置について	
5	/ ()	BLS講習 タスクトレーニング(実習室)	②心肺蘇生法 ・心肺蘇生法の基礎知識 ・一次救命処置の実際 ・二次救命処置について	
6	/ ()	BLS講習 タスクトレーニング(実習室)	②心肺蘇生法 ・心肺蘇生法の基礎知識 ・一次救命処置の実際 ・二次救命処置について	
7	/ ()	BLS講習 タスクトレーニング(実習室)	②心肺蘇生法 ・心肺蘇生法の基礎知識 ・一次救命処置の実際 ・二次救命処置について	
8	/ ()	BLS講習 タスクトレーニング(実習室)	②心肺蘇生法 ・心肺蘇生法の基礎知識 ・一次救命処置の実際 ・二次救命処置について	
9	/ ()	BLS講習 タスクトレーニング(実習室)	②心肺蘇生法 ・心肺蘇生法の基礎知識 ・一次救命処置の実際 ・二次救命処置について	
10	/ ()	BLS講習 タスクトレーニング(実習室)	②心肺蘇生法 ・心肺蘇生法の基礎知識 ・一次救命処置の実際 ・二次救命処置について	

11	/ ()	死の看取りの援助①	①死亡の場所とケア ・死の動向 ・死亡の場所 ・死亡の場所の特徴とケアの課題 ②死にゆく人と周囲の人々へのケア	
12	/ ()	死の看取りの援助②	③我が国の風習に根づく死後の処置のあり方 ・日本文化のなかの葬送儀礼 ・葬送儀礼と看護	
13	/ ()	死の看取りの援助③	④死後の処置 ・援助の基礎知識 ・援助の実際	
14	/ ()	特別講義	・葬儀屋さんの講義	
15	/ ()	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト: 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ (医学書院) 演習・実習に役立つ基礎看護技術 第4版 (ヌーヴェルヒロカワ)				
備考: 臨床経験・教育経験を踏まえ、看護技術の概要・観察・技術の実際とフィジカルアセスメントを教授する。				

学科		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
看護過程と臨床判断	講義	1年次後期	1単位／30時間	専任教員
目的:看護の目的を達成するための科学的方法である看護過程の概念と構成要素を看護理論を活用して学ぶ 目標:①看護過程を使って看護を行う利点とその使い方を理解し活用できる ②模擬患者(紙上事例)に対して看護過程を展開できる 評価方法:1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)				
回	月／日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	／ ()	看護過程とは	①看護過程とは ②看護過程の意味 ③看護過程を活用する意義	
2	／ ()	看護過程とは	①看護過程の5つの構成要素 ②5つの構成要素の関連性	
3	／ ()	看護過程を展開する際に基盤となる考え方	①問題解決過程 ②クリティカルシンキング	
4	／ ()	看護過程を展開する際に基盤となる考え方	③倫理的配慮と価値判断 ④リフレクション	
5	／ ()	看護記録	①看護記録とは ②記載・管理における留意点	
6	／ ()	看護記録	③看護記録の構成	
7	／ ()	看護過程展開の各段階	①アセスメント(情報の収集と分析) ②看護問題の明確化(看護診断)	
8	／ ()	看護過程展開の各段階	③看護計画 ④実施	
9	／ ()	看護過程展開の各段階	⑤評価	
10	／ ()	ヘンダーソンの理論を用いた看護過程の展開	①看護過程ってなに ②ヘンダーソンが考える看護 ③ヘンダーソンの看護論に基づく看護過程の学び方	
11	／ ()	ヘンダーソンの理論を用いた看護過程の展開	④ヘンダーソンの考えに基づいて看護過程を使ってみよう ⑤基本的看護の充足した状態および情報収集項目	
12	／ ()	紙上事例を用いて看護過程の展開	【事例展開】	
13	／ ()	紙上事例を用いて看護過程の展開	【事例展開】	
14	／ ()	紙上事例を用いて看護過程の展開	【事例展開】	
15	／ ()	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト:系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I 基礎看護学② (医学書院) 「看護の基本となるもの」 バージニア・ヘンダーソン (日本看護協会出版会) 「看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実際」 (ヌーヴェルヒロカワ) 「ヘンダーソンの基本的看護に関する看護問題リスト」 (ヌーヴェルヒロカワ)				
備考:臨床経験・教育経験を踏まえ、看護過程における思考過程を教授する。				

授業科目名の区分		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
地域と暮らし	講義	1年次前期	1単位／15時間	専任教員
目的: 在宅療養者の住む地域と暮らしを知り、在宅における看護師の役割と機能を学ぶ				
目標: ①在宅看護の実践の場の地域を知り状況を共有することができる ②在宅ケアにおける看護活動の在り方と看護職の役割を理解する ③在宅看護に関わる法律・制度を理解する				
評価方法:1.筆記試験(50%) 2.授業への参加態度・状況(10%) 3. 地域活動レポート(40%) 1と2と3を総合的に判断する				
回	月/日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	/ ()	在宅看護の概念	<ul style="list-style-type: none"> 在宅看護が必要とされる背景と根拠 日本の在宅看護の変遷 「在宅看護論」創設の目的 	
2	/ ()	在宅看護の目的と特徴	<ul style="list-style-type: none"> 在宅ケアの基盤 在宅看護がめざすもの 在宅看護の特徴・特性・提供方法 	
3	/ ()	在宅療養の支援	<ul style="list-style-type: none"> 在宅看護の対象者 家族への支援 	
4	/ ()	在宅看護の制度	<ul style="list-style-type: none"> 在宅看護にかかわる法令・制度 さまざまな社会資源 	
5	/ ()	地域探検	幸手市・久喜市・加須市の地域の実態を知る。人口分布・交通機関・買物場所等	
6	/ ()		幸手市・久喜市・加須市の人口動態(出生・死亡・世帯数) 高齢者の状況・在宅療養者・医療施設・集う場所・交流の場等	
7	/ ()	地域探検発表会	今後関わる地域の実態を知り、地域の中での看護師の役割を考え共有する	
8	/ ()	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト:系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 (医学書院)				
備考:臨床経験・教育経験を踏まえ、在宅看護の概要について教授する				

授業科目名	第一学科			
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
暮らしを支える看護 I	講義・演習	1年次前期	1単位／30時間	専任教員
目的：地域で療養又は障害を持ちながら生活をする対象とその家族の特徴を理解し、保健・医療・福祉と連携した看護活動について学ぶ				
目標：①地域における看護活動の特徴と看護の機能・役割について理解する ②在宅看護に関わる制度・法令と支援に必要な社会資源の活用を理解する				
評価方法：1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%) 1と2を総合的に判断する				
回	月／日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	／ ()	在宅看護の目的と特徴	①在宅看護の目指すもの ②在宅看護における看護師の役割と機能	
2	／ ()	在宅看護の対象者	①対象者の特徴 ②家族 ③生活者とは	
3	／ ()	在宅看護の提供の場と方法	①在宅看護の仕組み ・地域包括ケアシステム・ケアマネジメント ・療養の場の移行	
4	／ ()	在宅看護に係る制度	①在宅看護の仕組み ・介護保険制度 ・訪問看護制度	
5	／ ()	在宅看護に係る制度	①日本の訪問看護の動向 ・2025、2040年問題 ・特定看護師に期待されること	
6	／ ()	在宅看護に係る制度	①在宅看護における権利擁護 ②看護倫理要綱	
7	／ ()	在宅看護に必要な面接技術	①コミュニケーション技法 ②訪問の意義	
8	／ ()	在宅看護の歴史	①保健医療福祉の動向とかかわる制度の変遷 ②社会に求められる看護職の役割	
9	／ ()	在宅療養者の権利	①自己決定への支援 ②意思決定に関する倫理的諸問題	
10	／ ()	家族・社会資源の活用	①介護家族の状況 ②介護負担となる内容 ③ 社会資源とは	
11	／ ()	信頼関係の形成	①信頼関係の必要性 ②信頼関係を形成する過程と技術	
12	／ ()	在宅における生活行動の援助	①在宅療養者・家族の環境整備 ②食生活・嚥下に関する在宅看護援助	
13	／ ()	在宅における生活行動の援助	③排泄に関する在宅看護援助 ④清潔に関する在宅看護援助	
14	／ ()	在宅における生活行動の援助	⑤移動・移乗に関する在宅看護援助 ⑥呼吸に関する在宅看護援助	
15	／ ()	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト:系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 (医学書院)				
備考:教育経験を踏まえ、看護経験を踏まえ、在宅における看護援助の実際を教授する。				

授業科目名		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位/時間	担当教員
暮らしを支える看護Ⅱ	講義・演習	2年次前期	1単位/30時間	専任教員
目的:在宅における療養者・家族に対して看護を展開するために必要な看護の知識・技術・態度について学び、在宅における看護の基礎を学ぶ 目標:①在宅療養者とその家族への基本的な援助方法が理解できる ②在宅看護の対象理解に必要なアセスメント方法が理解できる				
評価方法:1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%) 1と2を総合的に判断する				
回	月/日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	/ ()	在宅で看護を展開するにあたって	①病院看護師が行う継続看護 ②訪問看護師が行う訪問看護	
2	/ ()	在宅看護を展開するにあたって	③生活を重視すること ④ICFによる全人的理解	
3	/ ()	在宅における医療・処置・管理支援と看護	①フィジカルアセスメントの意義・思考過程 ②フィジカルイグザミネーション(呼吸・循環)	
4	/ ()	在宅における医療・処置・管理支援と看護	③緊急時の対応 ④在宅におけるリスクマネジメント ⑤疼痛マネジメント	
5	/ ()	在宅における医療・処置・管理支援と看護	⑥医療処置に対する看護の目標 ⑦薬剤・医療衛生材料の調達方法	
6	/ ()	在宅における医療・処置・管理支援と看護	⑧服薬支援と看護 ⑨在宅持続皮下注入法	
7	/ ()	在宅における医療・処置・管理支援と看護	⑩気管カニューレ ⑫在宅吸引 ⑪吸入	
8	/ ()	在宅における医療・処置・管理支援と看護	⑬褥瘡予防・ケア ⑭膀胱留置カテーテル	
9	/ ()	在宅における医療・処置・管理支援と看護	⑮経管栄養法 ⑯在宅中心静脈栄養法	
10	/ ()	在宅療養者・家族の理解と援助	①高齢者・認知症療養者への対応 ・高齢者の特徴と在宅援助のポイント ・オレンジカフェ・認知症サポーター	
11	/ ()	在宅療養者・家族の理解と援助	②小児の在宅支援の理解 ・子どもの疾病や障害の現状と進行の受容 ・小児在宅ケアの特有な支援技術	
12	/ ()	在宅療養者・家族の理解と援助	③精神障害の療養者・家族への援助 ・病院と訪問の精神科看護の違い ・継続看護への依存	
13	/ ()	在宅療養者・家族の理解と援助	④在宅における終末期のプロセスと支援 ・ACPの概念・チームアプローチ	
14	/ ()	在宅援助技術の実際【演習】	①在宅であるものを利用した援助方法 ②訪問時のマナー	
15	/ ()	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト:系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 (医学書院)				
備考:在宅における療養者・家族に対して看護を展開するために必要な看護の知識・技術・態度について学び、在宅における看護の基礎を教授する。				

授業科目名の区分		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
家族看護学	講義・演習	2年次前期	1単位／15時間	外部講師
目的: 家族機能を高め、意思を尊重し、健康増進にむかうよう、入院・地域における家族看護を展開できる能力を養う				
目標: 1. 家族看護の発展と家族の多様性、家族問題について理解できる 2. 家族を捉える諸理論と多様な価値観をもつ家族を尊重できる 3. 家族アセスメントの方法を説明できる 4. 家族の発達段階に応じた、家族に対する援助の方向性を説明できる				
評価方法: 1. 筆記試験(90%) 2. 授業への参加態度・状況(10%) 1と2を総合的に判断する				
回	月／日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	/ ()	家族看護とは	①家族看護の発展と変遷 ②家族看護の目的と特徴 ③家族看護の定義	
2	/ ()	家族看護の対象理解	①家族とは、家族を取り巻く社会的背景の変化 ②家族の健康とは ③家族のヘルスプロモーションについて ④家族構造の把握方法(ジェノグラム、エコマップ)	
3	/ ()	家族看護の対象理解	⑤家族の機能について ⑥現代の家族と課題 ⑦現代の家族の特徴	
4	/ ()	家族看護を支える理論と介入法	①家族発達論 ②家族ストレス対処理論 ③家族システム理論 ④家族に変化をもたらすための介入について	
5	/ ()	家族看護展開の方法	①カンガリー家族アセスメントモデル・介入モデル ②家族看護過程 ③情報収集におけるポイント	
6	/ ()	事例に基づく家族看護学の実践	①急性期患者の家族看護 ②入院治療を受ける患児をもつ家族看護 ③終末期患者の家族看護 ④終末期患者の家族の特徴	
7	/ ()	事例に基づく家族看護学の実践	①高齢患者の家族看護 ②高齢者の家族看護の特徴 ③精神疾患患者の家族看護 ④家族療法、家族心理教育 ⑤精神看護における家族看護の特徴	
8	/ ()	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト: 系統看護学講座 家族看護学(医学書院)				
備考:				

授業科目名の区分		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位/時間	担当教員
在宅療養を支える看護 I	講義・演習	3年次前期	1単位/30時間	外部講師 専任教員
目的:在宅で行われている医療処置とその管理について学ぶ 事例に基づく看護過程の展開の考え方と方法を学ぶ 目標:①在宅療養者とその家族への医療的援助方法が理解できる ②看護展開に必要な情報の整理、計画立案、記録評価が理解できる				
評価方法:1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%) 1と2を総合的に判断する				
回	月/日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	/ ()	在宅療養を支える医療・処置・管理の支援と教育	・在宅での医療処置の現状 ①在宅酸素療法(HOT) ②在宅人工呼吸療法(NPPV)	
2	/ ()	在宅療養を支える医療・処置・管理の支援と教育	③経皮内視鏡的胃瘻造設術(PEG) ④インスリン療法	
3	/ ()	在宅療養を支える医療・処置・管理の支援と教育	⑤膀胱洗浄 ⑥ストーマケア	
4	/ ()	在宅療養を支える医療・処置・管理の支援と教育	⑦持続携行式腹膜透析(CAPD) ⑧エンゼルケア	
5	/ ()	在宅における看護過程の展開	①在宅看護過程の構成要素 ②情報収集・アセスメント	
6	/ ()	在宅における看護過程の展開	③在宅療養を継続できる計画 ・看護師不在時間帯の保障 ・本人、家族が継続して実施	
7	/ ()	在宅における看護過程の展開	④看護目標に沿ったアウトカム、評価日設定 ⑤リアセスメントと計画の修正	
8	/ ()	在宅における看護過程の展開	⑥看護記録と評価 ・記録の重要性 ・計画と実施、評価の連動性	
9	/ ()	紙上事例による看護過程の展開	【事例による看護過程の展開】 ・情報の収集項目 情報の整理	
10	/ ()	紙上事例による看護過程の展開	【事例による看護過程の展開】 ・アセスメント	
11	/ ()	紙上事例による看護過程の展開	事例による看護過程の展開 ・看護計画立案	
12	/ ()	紙上事例による看護過程の展開	【事例による看護過程の展開】 ・目指す看護の明確化 達成期間の想定	
13	/ ()	紙上事例による看護過程の展開	【事例による看護過程の展開】 ・情報の変化、評価のフィードバックによる看護計画の修正	
14	/ ()	紙上事例による看護過程の展開	【事例による看護過程の展開】 ・看護記録の内容と評価方法	
15	/ ()	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト:系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 (医学書院)				
備考:在宅看護の看護過程を学習し思考過程を学ぶ。対象に応じた援助を教授する。				

授業科目名の区分		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
在宅療養を支える看護Ⅱ	講義・演習	3年次前期	1単位／15時間	専任教員
目的:生活する場に訪問する看護職の姿勢を理解し、在宅療養者・家族との信頼関係形成のあり方を学ぶ 目標:①訪問看護師の役割について考え、療養者・家族への接し方や訪問マナーを身に付けることができる ②学生自ら在宅看護サービスの実際を企画し、体験ワークを通して既習学習の理解を深めることができる				
評価方法:1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%) 1と2を総合的に判断する				
回	月/日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	/ ()	在宅看護論における実習の手引き	①実習にむけた心構え ②服装や身だしなみ ③態度と行動 ④実習における学習方法 ⑤感染予防 ⑥事故・災害等発生時の対応 ⑦個人情報の取り扱い	
2	/ ()	訪問看護倫理要綱	①在宅看護の対象者の権利 ②訪問看護師の使命、「療養生活支援の専門家」としての誇りと自律性 ③訪問看護師の実践上の責任 ④訪問看護師とケアチーム	
3	/ ()	訪問に向けた安全管理(セーフティケアマネジメント)	・医療・ケア事故 ・感染予防対策 ・情報管理 ・医療廃棄物処理方法	
4	/ ()	在宅看護演習	・在宅でのコミュニケーション・面接技術(1)	
5	/ ()	在宅看護演習	・在宅でのコミュニケーション・面接技術(2) ・ロールプレイを通して訪問看護の役割の理解を深め、自己の学びを深める	
6	/ ()	在宅看護演習	・視覚障害者体験を通し、在宅療養者および介護者への共感的理解を学び自己の考えをまとめる	
7	/ ()	在宅看護演習	・高齢者体験を通し、在宅療養者および介護者への共感理解を学び自己の考えをまとめる	
8	/ ()	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト:系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 (医学書院)				
備考:生活する場に訪問する看護職の姿勢や、在宅療養者・家族との信頼関係形成のあり方を教授する。				

学科		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位/時間	担当教員
成人看護学概論	講義	1年次	1単位/30時間	外部講師 専任教員
目的: 成人看護の対象である「大人」の生活と健康に関する知識を学び、多様な健康状態や健康問題に対応するために必要な考え方や看護実践の在り方を理解する				
目標: ①成人期にある対象の身体的・心理的・社会的な特徴について説明できる ②成人期にある対象の健康の現状と動向を理解し、看護の役割について述べるができる ③成人看護において適応する理論やモデルを学び看護の介入方法を考察することができる				
評価方法: 授業の出席時間数・参加態度・筆記試験(80点) 提出物(20点)で総合的に評価する				
回	月/日	授業内容	内容	担当者
1	/()	成人期にある人の特徴	成人期にあるの対象の理解 ①発達課題 ②身体的・心理的・社会的特徴	仲北
2	/()	成人期にある人の生活と健康	成人期にあるの対象の生活 ①成人の生活習慣 ②成人を取り巻く環境	仲北
3	/()	成人をとりまく環境と生活からみた健康問題	①生活習慣に関連する健康問題 ②職業に関連する健康問題 ③ストレスに関連する健康問題	仲北
4	/()	成人への看護アプローチ	成人への看護アプローチの基本	仲北
5	/()	ヘルスプロモーションと看護	①ヘルスプロモーションと看護 ②ヘルスプロモーションを促進する看護の場と活動	仲北
6	/()	職業を持つ成人の健康	企業看護師の取り組み(産業保健)	企業看護師
7	/()	生活習慣病予防への取り組み	自治体(保健センター)における生活習慣病予防事業	保健師
8	/()	健康生活の急激な破綻とその回復を促す看護	①健康の急激な破綻 ②急激な健康破綻をきたした人への看護 ③救急医療を必要とする人々	仲北
9	/()	慢性病とともに生きる人を支える看護	①慢性病患者の理解 ②慢性病との共存を支える看護の実践 ・エンパワメント ・セルフマネジメントの推進	仲北
10	/()	障害がある人の生活とリハビリテーション	①障害がある人とリハビリテーション ②障害がある人とその生活を支援する看護 ③病とともに生活する人の療養の場の移行支援	仲北
11	/()	人生の最期のときを支える看護①	①終末期医療の現状と概念 ②ACPを考えよう(もしバナゲーム)	グループワーク
12	/()	人生の最期のときを支える看護②	①人生の最期のときを過ごしている人の理解 ②人生の最期のときを支える看護 ③緩和ケア ④人生の最期のときにある人の療養の場の移行支援	仲北
13 ・ 14	/()	がん罹患している人々の看護①②	①がん患者の抱える苦痛と生活上の困難 ②がん患者の治療と看護(化学療法・放射線療法) ・ボディイメージの変化に対する看護 ③がんとの共生を支える看護 ④新たな治療法、先端医療と看護	小島
15	/ ()	テスト		
履修者へのコメント: 成人看護学は「大人」の健康生活について考えていきます。自分自身の生活、家族や周囲				
使用テキスト: 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 成人看護学① (医学書院)				
備考:				

学科		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位/時間	担当教員
成人看護学方法論 I	講義	2年次	1単位/30時間	外部講師 専任教員
目的:成人期にある対象の特徴と障害を関連させ、健康回復に必要な看護を実践する方法を理解する 目標:①成人期に起こりやすい循環器疾患・呼吸器疾患・消化器疾患の健康障害の特徴を理解する ②成人期に生じる循環機能・呼吸機能・消化吸収機能・栄養・代謝機能障害をもつ対象に必要な援助方法を理解する				
評価方法: 授業の出席時間数・参加態度・筆記試験・提出物で総合的に評価する				
回	月/日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	/ ()	【呼吸機能障害のある患者の看護】	原因と障害の程度のアセスメントと看護 ・酸素化障害 ・換気障害 ・呼吸運動障害	
2	/ ()	〃	検査・処置を受ける患者の看護 ・動脈血ガス分析 ・呼吸機能検査 ・気管支鏡検査 ・胸腔穿刺 ・肺生検	
3	/ ()	〃	治療を受ける患者の看護 ・酸素療法 ・非侵襲的陽圧換気 ・侵襲的陽圧換気 ・肺切除術 ・胸腔ドレナージ ・薬物療法	
4	/ ()	〃	疾患を持つ患者の機能障害に応じた看護 (腫瘍 炎症性疾患 COPD 気管支喘息)	
5	/ ()	【循環機能障害のある患者の看護】	原因と障害のアセスメントと看護 ・ポンプ機能障害 ・刺激伝導障害 ・血管 リンパ管障害	
6	/ ()	〃	検査・処置を受ける患者の看護 ・心電図 ・心血管超音波 ・血管造影 ・心臓カテーテル	
7	/ ()	〃	治療を受ける患者の看護 ・経皮的冠動脈形成術 ・冠動脈バイパス術 ・大動脈内バルーンパンピング ・ペースメーカー ・植込み型除細動器 ・血栓溶解療法 ・血腫除去術	
8	/ ()	〃	疾患を持つ患者の機能障害に応じた看護 (心不全 虚血性心疾患 弁膜症 不整脈 閉塞性動脈硬化症)	
9	/ ()	【消化・吸収機能障害のある患者の看護】	原因と障害のアセスメントと看護 ・咀嚼・嚥下障害 ・消化機能障害 ・膵液分泌障害 ・胆汁分泌障害	
10	/ ()	〃	検査・処置・治療を受ける患者の看護 ・内視鏡 ・ERCP ・消化管造影 ・造影CT MRI ・直腸診 ・手術 ・ドレナージ ・経管栄養法 ・経静脈栄養法	
11	/ ()	〃	疾患を持つ患者の機能障害に応じた看護 (腫瘍 炎症性疾患 潰瘍性疾患 胆石症 膵炎)	
12	/ ()	【栄養・代謝機能障害のある患者の看護】	原因と障害のアセスメントと看護 ・肝機能障害 ・代謝機能障害	
13	/ ()	〃	検査・処置・治療を受ける患者の看護 ・超音波 ・肝生検 ・腹腔鏡 ・薬物療法(肝庇護、インターフェロン) ・手術 ・食道静脈瘤内視鏡治療 ・肝動脈塞栓術	
14	/ ()	〃	疾患を持つ患者の機能障害に応じた看護 (肝炎 肝硬変 肝がん 高尿酸血症 肥満 脂質異常症)	
15	/ ()	筆記試験		
履修者へのコメント:成人看護学で学ぶ内容は「人体の構造と機能」「疾病と治療」などで学んだことを想起し、根拠を理解ながら学習することでアセスメント能力を身につけましょう				
使用テキスト: 系統看護学講座 専門分野2 呼吸器 成人看護学② (医学書院) 系統看護学講座 専門分野2 循環器 成人看護学③ (医学書院) 系統看護学講座 専門分野2 消化器 成人看護学⑤ (医学書院)				
備考:				

学科		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
成人看護学方法論Ⅱ	講義	2年次	1単位／30時間	外部講師 専任教員
目的:成人期にある対象の特徴と障害を関連させ、健康回復に必要な看護を実践する方法を理解する 目標:①成人期に起こりやすい腎疾患・内分泌疾患・生殖器疾患の健康障害の特徴を理解する ②成人期に生じる内部環境調節機能・内分泌機能・排尿機能・生殖機能障害をもつ対象に必要な援助方法を理解する				
回	月／日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	／ ()	【内部環境調節機能障害のある患者の看護】	原因と障害の程度のアセスメントと看護 ・(体温 血糖 体液量 電解質 酸塩基平衡) 調節障害	
2	／ ()	〃	検査・処置を受ける患者の看護 ・糖負荷試験 ・血糖自己測定 ・静脈性尿路造影 ・腎生検	
3	／ ()	〃	治療を受ける患者の看護 ・薬物療法(インスリン補充、糖尿病経口薬) ・食事、運動療法 ・透析療法 ・腎移植	
4	／ ()	〃	疾患を持つ患者の機能障害に応じた看護 (低体温症 I型、II型糖尿病 腎不全 慢性腎臓)	
5	／ ()	【内分泌機能障害のある患者の看護】	原因と障害のアセスメントと看護 ・甲状腺機能障害 ・副腎機能障害 ・下垂体機能障害	
6	／ ()	〃	検査・処置・治療を受ける患者の看護 ・ホルモン血中・尿中濃度測定 ・ホルモン負荷試験 ・甲状腺ホルモン療法 ・甲状腺切除術	
7	／ ()	〃	疾患を持つ患者の機能障害に応じた看護 (甲状腺機能亢進症 甲状腺機能低下症 腫瘍)	
8	／ ()	【排尿機能の障害のある患者の看護】	原因と障害のアセスメントと看護 ・蓄尿 排尿障害	
9	／ ()	〃	検査・処置・治療を受ける患者の看護 ・尿流動態検査 ・残尿測定 ・膀胱鏡 ・膀胱切除術 ・前立腺切除術 ・ホルモン療法	
10	／ ()	〃	疾患を持つ患者の機能障害に応じた看護 (腎・尿路結石 腫瘍)	
11	／ ()	【性・生殖・乳腺機能障害のある患者の看護】	原因と障害のアセスメントと看護 ・性機能障害 ・生殖機能障害 ・ホルモン欠落症状	
12	／ ()	〃	検査・処置・治療を受ける患者の看護 ・ヒトパピローマウイルス検査 ・マンモグラフィー ・超音波検査(腹部 経膈 乳房) ・勃起障害治療 ・性交 障害治療 ・手術療法 ・ホルモン療法	
13	／ ()	〃 【男性生殖器】	疾患を持つ患者の機能障害に応じた看護 (前立腺炎 前立腺肥大 腫瘍)	
14	／ ()	〃 【女性生殖器】	疾患を持つ患者の機能障害に応じた看護 (子宮筋腫 子宮内膜症 卵巣嚢腫 腫瘍 乳癌) ※	
15	／ ()	筆記試験		
履修者へのコメント:成人看護学で学ぶ内容は「人体の構造と機能」「疾病と治療」などで学んだことを想起し根拠を理解ながら学習することでアセスメント能力を身につけましょう				
使用テキスト:系統看護学講座 専門分野2 内分泌・代謝 成人看護学⑥ (医学書院) 系統看護学講座 専門分野2 腎・泌尿器 成人看護学⑧ (医学書院) 系統看護学講座 専門分野2 女性生殖器 成人看護学⑨ (医学書院)				
備考: ※月経異常、更年期障害については母性看護学領域で教授し、成人看護学では子宮、卵巣疾患と乳房疾患を取り上げる				

学科		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位/時間	担当教員
成人看護学方法論Ⅲ	講義	2年次	1単位/30時間	専任教員
目的: 成人期にある対象の特徴と障害を関連させ、健康回復に必要な看護を実践する方法を理解する 目標: ①成人期に起こりやすい血液疾患・アレルギー疾患・膠原病・感染症・脳・神経疾患・運動器疾患・感覚器(眼 耳鼻咽喉 歯・口腔 皮膚)疾患の健康障害の特徴を理解する ②成人期に生じる身体防御機能・脳・神経機能・運動機能・感覚機能の障害をもつ対象に必要な援助方法を理解する				
評価方法: 授業の出席時間数・参加態度・筆記試験・提出物で総合的に評価する				
回	月/日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	/ ()	【身体防御機能の障害のある患者の看護】	原因と障害のアセスメントと看護 ・皮膚粘膜障害 ・免疫機能障害 ・骨髄機能障害	
2	/ ()	〃	検査・処置を受ける患者の看護 ・スキンテスト ・粘膜 皮膚生検 ・骨髄検査	
3	/ ()	〃	治療を受ける患者の看護 ・薬物療法(減感作 免疫抑制薬 ステロイド) ・造血幹細胞移植 ・HIV療法	
4	/ ()	〃	疾患を持つ患者の機能障害に応じた看護 (アレルギー疾患 自己免疫疾患 血液悪性疾患 ヒト免疫不全ウイルス感染症<HIV>)	
5	/ ()	【脳・神経機能障害のある患者の看護】	原因と障害のアセスメントと看護 ・生命活動機能調節機能障害 ・運動機能障害 ・感覚機能障害 ・言語機能障害 ・高次脳機能障害	
6	/ ()	〃	検査・処置を受ける患者の看護 ・脳波検査 ・髄液検査 ・脳血管造影	
7	/ ()	〃	治療を受ける患者の看護 ・開頭術 ・穿頭術 ・血管バイパス術 ・血管内治療 ・脳室ドレナージ ・V-Pシャント術 ・低体温療法	
8	/ ()	〃	疾患を持つ患者の機能障害に応じた看護 (脳血管障害 脳腫瘍 脳炎 髄膜炎 頭部外傷 脊髄損傷 重症筋無力症 ギランバレー症候群 筋萎縮瀨側索硬化症)	
9	/ ()	【運動機能の障害のある患者の看護】	原因と障害のアセスメントと看護 ・姿勢機能障害 ・移動機能障害 ・作業機能障害	
10	/ ()	〃	検査・処置・治療を受ける患者の看護 ・関節可動域検査 ・徒手筋力テスト ・脊髓造影 ・膝関節鏡 ・筋生検 ・ギプス固定 ・牽引法 ・人工関節置換術	
11	/ ()	〃	疾患を持つ患者の機能障害に応じた看護 (関節リウマチ 椎間板ヘルニア 四肢切断術)	
12	/ ()	【感覚機能障害のある患者の看護】	原因と障害のアセスメントと看護 ・視覚障害 ・聴覚障害 ・嗅覚障害 ・味覚障害 ・触覚障害	
13	/ ()	〃	検査・処置・治療を受ける患者の看護 ・眼底検査 ・聴力検査 ・経鼻内視鏡検査 ・味覚検査 ・眼底光凝固療法 ・網膜剥離治療 ・眼内レンズ挿入 ・鼓室形成術 ・小線源治療	
14	/ ()	〃	疾患を持つ患者の機能障害に応じた看護 (中途視覚障害 突発性難聴 メニエール病 副鼻腔炎 末梢神経障害)	
15	/ ()	筆記試験		
履修者へのコメント: 成人看護学で学ぶ内容は「人体の構造と機能」「疾病と治療」などで学んだことを想起し、根拠を理解しながら学習することでアセスメント能力を身につけましょう				
使用テキスト: 系統看護学講座(医学書院) 専門分野2 血液・造血器 成人看護学④ アレルギー・膠原病・感染症 成人看護学① 脳・神経 成人看護学⑦ 運動器 成人看護学⑩ 眼 成人看護学⑬ 耳鼻咽喉 成人看護学⑭ 歯・口腔 成人看護学⑮				
備考: 臨床経験・教育経験を踏まえ、成人看護学の概要について教授する				

学科		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
成人看護学方法論Ⅳ	講義・演習	2年次	1単位／30時間	専任教員
目的:成人看護学概論、成人看護学方法論Ⅰ～Ⅲで学んだ知識をもとに、急性疾患の発症や周手術期など生命の危機的状況にある患者および家族の看護を学ぶ 目標:①急性期にある患者と家族の特徴を理解し、生命の危機的状況における看護を理解する ②周手術期に必要な看護を理解し、援助することができる				
評価方法:授業の出席時間数・参加態度・筆記試験・提出物で総合的に評価する				
回	月／日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	/ ()	クリティカルケア看護	①クリティカルケア看護とは(看護師の役割) ②クリティカルケアを必要とする患者・家族の特徴 ③緊急度と重症度のアセスメント ・意識レベル ・神経学的所見 ・バイタルサイン	
2	/ ()	〃	④必要な医療機器 ⑤苦痛の緩和 ⑥日常生活行動への援助 ⑦回復を促進する援助	
3	/ ()	クリティカルケア看護の実際	①心肺停止状態への処置 ・一時救命処置 ・二次救命処置(動画視聴) ②急性症状への処置 ・ショック ・外傷 ・熱傷 ・中毒 ・熱中症	
4	/ ()	周手術期看護に必要な基礎知識	①手術療法の種類と適応 ②麻酔の種類と特徴、麻酔による合併症	
5	/ ()	〃	③手術・麻酔による侵襲と生体反応 ④術後合併症	
6	/ ()	周手術期看護の実際	【手術前の看護】 ①術前における看護師の役割 ②入室時の準備	
7	/ ()	【シミュレーション演習】	<事前学習> ・「手術当日(入室まで)」の行動計画書を記入して参加する	
8	/ ()			
9	/ ()	周手術期看護の実際	【手術中の看護】 ・手術中における看護師の役割	
10	/ ()	周手術期看護の実際	【手術直後の看護】 ①術後の観察とアセスメント ②術後の創傷管理 ③術後の創痛管理	
11	/ ()	【演習】	<事前学習> ・「手術当日(入室直後)」の行動計画書を記入して参加する	
12	/ ()	周手術期看護の実際	【手術後の回復を促進するための看護】 ①術後合併症予防(早期離床) ②術後の日常生活援助	
13	/ ()	【シミュレーション演習】	<事前学習> ・「手術1日目」の行動計画書を記入して参加する	
14	/ ()	周手術期看護の実際	日常生活と社会復帰に向けた退院支援	
15	/ ()	筆記試験		
履修者へのコメント:この科目の内容は成人看護学実習Ⅰにつながるものです。急性期にある対象の身体的・心理的・社会的な特徴を捉えて必要な看護を学びましょう				
使用テキスト:系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論・臨床外科看護各論 (医学書院) 系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護学・救急看護学				
備考:臨床経験・教育経験を踏まえ、成人看護学の概要について教授する				

学科		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位/時間	担当教員
成人看護学方法論Ⅴ	講義・演習	2年次	1単位/30時間	専任教員
目的:成人看護学概論、成人看護学方法論Ⅰ～Ⅲで学んだ知識をもとに、事例患者から看護過程の展開方法を学ぶ 目標:①成人期(回復期・慢性期)の看護を必要とする対象の問題点を明確にできる ②成人期(回復期・慢性期)の看護を必要とする対象の看護目標を設定し援助計画を立案することができる ③計画に基づいた看護を実践(演習)し、行った看護の評価・修正ができる				
評価方法:授業の出席時間数、参加態度、提出物(事前学習・事後学習)などで総合的に判断する				
回	月/日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	/ ()	看護過程とは(復習) 【講義】	・事前学習「事例疾患の病態生理を調べる」 ①看護過程の展開方法(復習) ②成人期の特徴(身体的・心理的・社会的・発達課題) ③事例紹介「人工肛門造設術後の患者」(回復期) ④病態関連図の作成	
2	/ ()	看護過程の展開Ⅰ (回復期の看護) ・情報の整理～分析 【講義・演習】	・事前学習「情報の整理」 ①情報の整理により導き出した未充足状態の確認 ②未充足の判断から、分析・解釈 (個人ワーク)	
3	/ ()			
4	/ ()	看護過程の展開Ⅰ (回復期の看護) ・看護問題の明確化～ 看護目標の設定～ 計画立案 【講義・演習】	・事前学習「看護問題の抽出(明確化)」 ①看護問題の優先順位を考える ②看護目標の設定:長期目標・短期目標 ③目標を達成するための看護計画立案 (個人ワーク)	
5	/ ()			
6	/ ()	看護過程の展開Ⅰ (回復期の看護) ・看護計画の確認 【講義】	・事前学習「看護計画立案(5W1Hで具体的に)」 ①生活の再構築に向けた視点での看護計画 ②個別性のある看護計画 ③行動計画書の記入について	
7	/ ()	看護過程の展開Ⅰ (回復期の看護) ・看護の実践～ 評価・修正 【シミュレーション演習】	・事前学習 「看護計画に基づいた1日の行動計画書作成」 ①「生活の再構築」に向けた援助場面における 看護の実践 ②援助後の患者の反応や観察点から看護計画の 妥当性を評価する(報告・記録) ③看護計画の修正	
8	/ ()			
9	/ ()	看護過程の展開Ⅱ (慢性期の看護) 【講義・演習】	・事前学習「事例疾患の病態生理を調べる」 ①事例紹介「糖尿病の患者の看護」(慢性期) ②病態関連図の作成	
10	/ ()	看護過程の展開Ⅱ (慢性期の看護) ・情報の整理～分析 【講義・演習】	・事前学習「情報の整理」 ①情報の整理により導き出した未充足状態の確認 ②未充足の判断から、分析・解釈 (個人ワーク)	
11	/ ()			
12	/ ()	看護過程の展開Ⅱ (慢性期の看護) ・看護問題の明確化～ 看護目標の設定～ 計画立案 【講義・演習】	・事前学習「看護問題の抽出(明確化)」 ①看護問題の優先順位を考える ②看護目標の設定:長期目標・短期目標 ③目標を達成するための看護計画立案 (個人ワーク)	
13	/ ()			
14	/ ()	看護過程の展開Ⅱ (慢性期の看護) ・看護計画の確認～ 指導計画書作成 【講義・演習】	・事前学習「看護計画立案(5W1Hで具体的に)」 ①「セルフケア獲得」に向けた視点での看護計画 ②個別性のある看護計画(指導計画書)作成 (個人ワーク)	
15	/ ()			
履修者へのコメント:この科目は成人看護学実習につながります。回復期～慢性期にある対象の身体的・心理的・社会的な特徴を捉え、今まで学んできた知識を統合し科学的根拠をもとにアセスメントする必要があります。丁寧に事前学習・事後学習に取り組みましょう				
使用テキスト:ヌーヴェルヒロカワ:看護過程を使ったヘンダーソン理論の実践 ヌーヴェルヒロカワ:ヘンダーソンの基本的看護に関する看護問題リスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学①⑤⑥				
備考:臨床経験・教育経験を踏まえ、成人看護学の概要について教授する				

授業科目名の区分		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
老年看護学概論	講義	1年次後期	1単位／15時間	外部講師 専任教員
目的:①高齢者の身体的・心理的・社会的特徴について理解し老年看護に必要な基礎的知識を学ぶ ②高齢期の健康実態、保健・医療・福祉制度の位置づけや各施設における看護の役割について学ぶ 目標:①老年期を生きる人について理解できる ②加齢に伴う変化について理解できる ③高齢社会の保健医療福祉の制度と看護の役割について理解できる ④高齢者の人権と倫理問題について理解できる				
評価方法:1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%) 1と2を総合的に判断する				
回	月/日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	/ ()	老いるということ、老いを生きるということ	①老いを学ぶ入口 ②老いるということ	
2	/ ()	老いるということ、老いを生きるということ	③老いを生きるということ	
3	/ ()	高齢社会と社会保障	①高齢社会の統計的輪郭 ②高齢社会における保健医療福祉の動向	
4	/ ()	高齢社会と社会保障	高齢者大学における目的・役割 (久喜市役所)	
5	/ ()	高齢社会と社会保障		
6	/ ()	老年看護の基盤	①老年看護のなりたち ②老年看護の役割	
7	/ ()	高齢者と家族のかかわり	①高齢者が支える家族の役割 ②高齢者を支える家族の役割	
8	/ ()	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト:系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 (医学書院)				
備考: 臨床経験・教育経験を踏まえ、老年看護学の概要について教授する。				

授業科目名の区分		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位/時間	担当教員
老年看護学方法論 I	講義・演習	1年次後期	1単位/30時間	外部講師 専任教員
目的:高齢者の身体的・心理的・社会的変化に伴う日常生活を理解し、生活機能の維持について援助を学ぶ 目標:①加齢に伴う機能の変化とその看護が理解できる ②高齢者の健康問題と看護について理解できる ③日常生活を支える基本的活動について理解できる ④高齢者の生活機能、生活・療養の場における看護について理解できる				
評価方法:1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%) 1と2を総合的に判断する				
回	月/日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	/ ()	高齢者のヘルスアセスメント	①ヘルスアセスメントの基本 ②身体の高齢変化とアセスメント ・皮膚とその付属器 ・視聴覚とその他の感覚 ・循環系・呼吸器系・消化・吸収	
2	/ ()	高齢者のヘルスアセスメント	②身体の高齢変化とアセスメント ・ホルモンの分泌 ・泌尿生殖器と性 ・運動系	
3	/ ()	高齢者の生活機能を整える看護	①日常生活を支える基本的活動 ・基本動作と環境のアセスメントと看護 ・転倒のアセスメントと看護 ・廃用症候群のアセスメントと看護	
4	/ ()	高齢者の生活機能を整える看護	②食事・食生活 ・食生活の注目する意義 ・高齢者に特徴的な変調 ・摂食・嚥下機能のアセスメント ・食事に対する看護	
5	/ ()	高齢者の生活機能を整える看護	③排泄 ・排泄ケアの基本姿勢 ・排泄障害のアセスメントと看護 ・排尿障害のアセスメントと看護 ・排便障害のアセスメントと看護 ④清潔 ・清潔の意義 ・高齢者に特徴的な変調 ・清潔のアセスメント ・清潔の看護	
6	/ ()	高齢者の生活機能を整える看護	⑤生活リズム ・高齢者と生活リズム ・高齢者に特徴的な変調 ・生活リズムのアセスメント ・生活リズムを整える看護 ⑥コミュニケーション ・高齢者とのコミュニケーションの特徴とかわり方 ・高齢者におこりやすいコミュニケーション障害 ・コミュニケーション障害のアセスメントと看護	
7	/ ()	高齢者の生活機能を整える看護	⑦セクシャリティ ・高齢者におけるセクシャリティ ⑧社会参加	

8	/ ()	治療を必要とする高齢者の看護	①検査を受ける高齢者への看護 ②薬物療法を受ける高齢者の看護 ③リハビリテーションを受ける高齢者の看護 ④入院治療を受ける高齢者の看護 ⑤手術を受ける高齢者の看護	
9	/ ()	エンドオブライフケア	①エンドオブライフの概念 ②生きることを支えるケア	
10 11	/ ()	演習	①老人疑似体験 ②杖歩行・車椅子・歩行器	
12	/ ()	生活・療養の場における看護	①高齢者のヘルスプロモーション ・高齢者のヘルスプロモーション ・介護予防とヘルスプロモーション ・住み慣れた場所で最期までを実現する地域包括ケア ②保健医療福祉施設における看護 ・急性期治療を担う医療施設の特徴と看護	
13	/ ()	生活・療養の場における看護	③保健医療福祉施設における看護 ・療養生活を支える保健医療福祉施設の特徴と看護 ④介護を必要とする高齢者を含む家族への看護 ・介護家族の生活と健康 ・介護家族への看護	
13	/ ()	高齢者のリスクマネジメント	①高齢者と医療安全 ・高齢者と医療事故 ・高齢者特有のリスク要因 ・病院・施設におけるリスクマネジメント ・高齢者がみまわれやすい医療事故と対応の実際 ②高齢者と救命救急 ・救急を受診する高齢者の特徴	
14	/ ()	高齢者のリスクマネジメント	③高齢者と災害看護 ・災害と災害看護 ・災害に対する高齢者特有のリスク ・災害のサイクルに伴う看護支援	
15	/ ()	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト: 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 (医学書院)				
備考: 臨床経験・教育経験を踏まえ、老年看護の概要・観察・技術の実際とフィジカルアセスメントを教授する。				

授業科目名の区分		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
老年看護学方法論Ⅱ	講義・演習	2年次前期	1単位／30時間	専任教員
目的: 加齢に伴う機能変化、疾患による障害、特有の健康問題を理解し、対象に即した看護が展開できる基礎的知識・技術・態度を学ぶ 目標: ①高齢者の健康のニーズと看護の方向性がわかる ②高齢者の疾患の特徴が理解でき、看護援助がわかる ③高齢者と薬剤の関わりが理解でき、看護援助がわかる				
評価方法: 1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%) 1と2を総合的に判断する				
回	月／日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	/ ()	高齢者の生理的特徴	①老化と寿命 ②認知・知覚機能の変化 ③呼吸・循環機能の変化 ④代謝・排泄機能の老化 ⑤免疫機能の老化 ⑥運動機能の老化 ⑦性機能の老化	
2	/ ()	老年症候群	①おもに急性疾患に付随する症候 ・意識障害 ・せん妄 ・熱中症 ・脱水症 ・発熱 ②おもに慢性疾患に付随する症候 ・腰背痛 ・やせ(るいそう) ・手足のしびれ	
3	/ ()	老年症候群	③おもに慢性疾患に付随する症候 ・浮腫 ・睡眠障害 ・抑うつ ④おもにADL低下に不随する症候 ・転倒・骨折 ・排尿障害(尿失禁) ・便秘 ・嚥下障害 ・入浴事故	
4	/ ()	高齢者のフィジカルアセスメント	①問診 ②視診 ③触診 ④打診 ⑤聴診 ⑥血圧測定	
5	/ ()	高齢者のフィジカルアセスメント	⑦画像検査 ⑧心電図 ⑨検査 ⑩栄養評価 ⑪在宅でのフィジカルアセスメント	
6	/ ()	高齢者の疾患の特徴	①認知症 ②精神・神経疾患 ③循環器系の疾患 ④呼吸器系の疾患	

7	/ ()	高齢者の疾患の特徴	⑤消化器系の疾患 ⑥内分泌・代謝系の疾患 ⑦膠原病 ⑧血液の疾患 ⑨腎・泌尿器系の疾患	
8	/ ()	高齢者の疾患の特徴	⑩運動器の疾患 ⑪皮膚の疾患 ⑫感覚器の疾患 ⑬歯・口腔の疾患 ⑭感染症	
9	/ ()	高齢者と薬	①高齢者の安全な薬物療法 ②高齢者で留意すべきおもな薬剤	
10	/ ()	高齢者に対する看護の方法(技術)演習	③服薬管理能力のアセスメントと服薬の実際	
11	/ ()	高齢者のリハビリテーション	①腰痛症と四肢関節痛のリハビリテーション ②寝たきり患者のリハビリテーション	
12	/ ()	高齢者に対する看護の方法(技術)演習	③介護予防のリハビリテーションの実際 ④認知症患者におけるリハビリテーションの実際	
13	/ ()	高齢者に対する看護の方法(技術)演習	食事援助 清潔援助 排泄援助	
14	/ ()	高齢者に対する看護の方法(技術)演習	食事援助 清潔援助 排泄援助	
15	/ ()	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト:系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 老年看護病態・疾患論 (医学書院)				
備考:臨床経験・教育経験を踏まえ、老年看護の概要・観察・技術の実際とフィジカルアセスメントを教授する。				

授業科目名の区分		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
老年看護学方法論Ⅲ	講義・演習	2年次後期	1単位／15時間	専任教員
目的:高齢者看護の目的を達成するために看護過程の概念と構成要素を学ぶ 目標:模擬患者(紙上事例)に対して看護過程を展開できる				
評価方法:1.筆記試験(30%) 2.看護過程の展開(70%) 1と2を総合的に判断する				
回	月／日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	/ ()	看護過程の展開と実習での学び方のヒント	①看護過程の考え方 (ヘンダーソンの理論を基本にする) ・看護過程の基本 ・高齢者の特徴をいかした看護過程の考え方 ②事例展開の実際 ・事例の状況設定 ・事例の展開	
2	/ ()	看護過程の展開	模擬患者に対する看護過程(情報分析・解釈)	
3	/ ()	看護過程の展開	模擬患者に対する看護過程(GW)	
4	/ ()	看護過程の展開	模擬患者に対する看護過程(関連図・看護計画)	
5	/ ()	看護過程の展開	模擬患者に対する看護過程(GW)	
6	/ ()	看護過程の展開(演習)	模擬患者に対する看護計画の実施	
7	/ ()	看護過程の展開	模擬患者に対する看護過程(評価)	
8	/ ()	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト:系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 (医学書院)				
備考:臨床経験・教育経験を踏まえて、老年看護の看護過程を教授する。				

学科		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位/時間	担当教員
小児看護学概論	講義	1年次後期	1単位/15時間	専任教員
目的:小児看護の対象と変遷、小児の社会的現状から、小児看護の理念・役割を学ぶ 目標:①小児看護の変遷や小児の社会的現状から、小児看護の役割(理念・目標)を理解する ②子どもの基本的な権利と用語に関わる法律、小児看護における倫理を理解する ③子どもの成長・発達過程(身体的・知的・社会的特徴)を理解する ④子どもの成長・発達に応じた関わり方、援助の概要を理解する ⑤現代社会における子どもや家族を取り巻く諸問題や課題を理解する				
評価方法:1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)				
回	月/日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	/ ()	小児看護の特徴と理念	①小児看護の目ざすところ ②小児と家族の諸統計 ③小児看護の変遷 ④小児看護における倫理 ⑤子どもの権利条約の意義と内容 ⑥子どもの基本的な権利と擁護にかかわる法律 ⑦小児看護の課題	
2	/ ()	子どもの成長・発達	①成長・発達とは ②成長・発達の進み方(一般的原則) ③成長・発達に影響する因子 ④成長の評価 ⑤発達の評価	
3	/ ()	新生児	①新生児 ・形態的特徴 ・身体生理の特徴 ・各機能の発達 ・新生児の養育および看護 ②乳児 ・形態的特徴 ・身体生理の特徴 ・感覚機能 ・運動機能 ・知的機能 ・コミュニケーション機能 ・情緒・社会的機能 ・乳児の養育および看護	
4	/ ()	乳児・幼児	①幼児 ・形態的特徴 ・身体生理の特徴 ・感覚機能 ・運動機能 ・知的機能 ・コミュニケーション機能 ・情緒・社会的機能 ・幼児の養育および看護 ②学童 ・形態的特徴 ・身体生理の特徴 ・感覚機能 ・運動機能 ・知的機能 ・コミュニケーション機能 ・知的・情緒機能 ・社会的機能 ・不適応行動・症状 ・学童を取り巻く諸環境 ・学童の養育および看護	
5	/ ()	学童期・思春期・青年期	①形態的特徴 ②身体生理の特徴 ③知的・情緒(心理)的・社会的機能 ④生活の特徴 ⑤心理・社会的適応に関する問題 ⑥飲酒・喫煙 ⑦性に関する健康問題 ⑧反社会的・逸脱行動 ⑨事故・外傷 ⑩思春期の看護	
6	/ ()	家族の特徴とアセスメント	①子どもにとっての家族とは ②家族アセスメント	

7	/ ()	子どもと家族を取り巻く社会	①児童福祉 ・児童福祉の歴史・変遷 ・現在の児童福祉(児童福祉施設-乳児院) ②母子保健 ・母子保健の歴史 ・現在の母子保健 ③医療費の支援 ・未熟児養育医療 ・小児慢性特定疾患治療研究事業 ④予防接種 ・予防接種の歴史 ・現在の予防接種 ・副反応と健康被害救済制度 ⑤学校保健 ・学校保健の歴史 ・健康診断 ・健康相談 ・感染予防 ・学校保健活動の推進 ⑥特別支援教育 ⑦臓器移植法	
8	/ ()	テスト		
履修者へのコメント:小児看護は生命の発生から始まり、成人への移行期まで連続性のある対象として広くとらえる。成長過程の各時期のニーズに応じた支援を提供するための基礎を学ぶ				
使用テキスト:系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学① (医学書院)				
備考: 臨床経験・教育経験を踏まえ、小児看護の概要について教授する。				

学科		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
小児看護学方法論 I	講義・演習	1年次後期	1単位／30時間	専任教員
目的: 病気・障害を持つ子どもと家族をとりまく社会・環境、疾病の経過やアセスメントの基礎を学ぶ				
目標: ①病気や障害を持つ子どもと家族の看護について理解する ②子どもの状況に特徴づけられる看護について理解する ③子どもにおける疾病の経過と看護について理解できる ④子どものアセスメント技術について理解できる ⑤症状を示す子どもの看護について理解できる ⑥検査・処置を受ける子どもの看護について理解できる ⑦障害のある子どもの看護について理解できる ⑧子どもの虐待と看護について理解できる				
評価方法: 1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)				
回	月／日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	/ ()	病気・障害を持つ子どもと家族の看護	病気・障害が子どもと家族に与える影響 ・病気・障害に対する子どもの反応 子どもの病気・障害に対する家族の反応	
2	/ ()	病気・障害を持つ子どもと家族の看護	子どもの健康問題と看護 ・健康問題を持つ子どもと家族の看護の方向性 ・子どもの治療・健康管理にかかわる看護 ・子どもの日常生活にかかわる看護 ・健康問題を持つ子どもの家族の看護 インフォームドとプレパレーションの意義 (プレパレーション演習は方法論 I)	
3	/ ()	子どもの状況に特徴づけられる看護	入院中の子どもと家族の看護(入院環境)	
4	/ ()	子どもの状況に特徴づけられる看護	外来・在宅における子どもと家族の看護 外来の特徴と看護の役割 在宅療養の背景 在宅療養中の子どもと家族の特徴と看護 地域社会の中での生活支援(訪問看護・特別支援学校)	
5	/ ()	子どもにおける疾病の経過と看護	災害時の子どもと家族の看護 慢性期・急性期にある子どもと家族の看護	
6	/ ()	子どもにおける疾病の経過と看護	周手術期の子どもと家族の看護 終末期の子どもと家族の看護 事例	
7	/ ()	子どものアセスメント	①アセスメントに必要な技術 ・コミュニケーション ・バイタルサイン ・身体測定 ②身体的アセスメント ・一般状態 ・目・耳・顔面・鼻・口腔 ③全身のアセスメント ・呼吸 ・心臓・血管系 ・腹部 ・筋・骨格系 ・神経系 ・生殖系・リンパ系 ・皮膚・爪・体毛	
8	/ ()	症状を示す子どもの看護	グループワーク ①痛み ②呼吸困難 ③チアノーゼ ④ショック ⑤意識障害 ⑥けいれん ⑦発熱 ⑧発疹 ⑨下痢 ⑩便秘 ⑪嘔吐 ⑫黄疸 ⑬脱水 ⑭浮腫 ⑮出血 ⑯貧血	

9	/ ()	症状を示す子どもの看護	グループワーク発表	
10	/ ()	検査を受ける子どもの看護	①検査・処置総論 ・子どもにとっての検査・処置 ・看護の実際 (プレパレーション演習は方法論Ⅰ) ②薬物動態と薬用量の決定	
11	/ ()	処置を受ける子どもの看護	①与薬・点眼・点鼻・注射・輸液管理 ②抑制 ③検体採取(検尿) ④骨髄穿刺・腰椎穿刺	
12	/ ()	演習	バイタルサイン(T・P・R・BP) 身体計測(身長・体重) おむつ交換・坐浴・与薬	
13	/ ()	演習	処置を受ける子どもの看護 骨髄穿刺・腰椎穿刺 検尿・尿測 点滴固定演習	
14	/ ()	障害のある子どもの看護 子どもの虐待と看護	①障害のとらえ方 ②障害のある子どもと家族の特徴と社会支援 ③障害のある子どもと家族への社会的支援 待の現状 ②リスク要因と発生予防 ③早期発見 ④求められるケア	①虐待
15	/ ()		終講試験	
履修者へのコメント:病気・障害を持つ子どもと家族の特徴について理解し具体的技術も学ぶ				
使用テキスト:系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学① (医学書院)				
備考:臨床経験・教育経験を踏まえて、小児看護の概要・観察・技術の実際とフィジカルアセスメントを教授する。				

学科		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位/時間	担当教員
小児看護学方法論Ⅱ	講義・演習	2年次後期	1単位/30時間	専任教員
目的:健康障害が小児に与える影響を学び、対象に応じた看護の役割と基本的な援助の方法を学ぶ 目標:①おもな小児疾患、症状に対する看護について理解できる ②疾患を持つ子どもと家族の看護について理解できる ③プレパレーションの方法について理解できる				
評価方法:1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)				
1	/ ()	染色体異常・体内環境により発症する先天異常と看護	①看護総論・出生前後の看護 ②おもな疾患 ・染色体異常概論 ・常染色体異常 ・性染色体異常 ③疾患をもった子どもの看護 ・ダウン症候群の子どもの看護 ・18トリソミー症候群の子どもの看護	
2	/ ()	新生児の看護	①看護総論 ②おもな疾患 ・新生児の疾患 ・低出生体重児の疾患・成熟異常 ③疾患をもった子どもの看護 ・低出生体重児の看護 ・新生児仮死が認められる子どもの看護 ・高ビリルビン血症の新生児の看護	
3	/ ()	代謝疾患と看護	①看護総論 ②おもな疾患・看護 ・新生児マス・スクリーニング ・先天代謝異常症ーフェニルケトン尿症 ・1型・2型糖尿病 ・糖尿病の子どもの看護	
4	/ ()	内分泌疾患と看護	①看護総論 ②おもな疾患・看護 ・先天性副腎過形成症 ・甲状腺疾患ークレチン症	
	/ ()	免疫疾患・アレルギー疾患・リウマチ性疾患と看護	①看護総論 ②おもな疾患・看護 ・気管支喘息 ・若年性特発性関節炎	
5	/ ()	血液・造血器疾患と看護	①看護総論 ②おもな疾患・看護 ・再生不良性貧血 ・血小板減少性紫斑病 ・IgA血管炎 ・血友病	

6	/ ()	悪性新生物と看護	①看護総論 ・診断時の看護 ・治療を受ける子どもの看護 ・移行期の看護 ・再燃・再発時の看護 ②おもな疾患・看護 ・総論 ・造血器腫瘍—白血病 ・脳腫瘍 ・固形腫瘍—ウィルムス腫瘍	
7	/ ()	腎泌尿器および生殖器疾患と看護	①看護総論 ②おもな疾患・看護 ・糸球体疾患—急性糸球体腎炎 ・ネフローゼ症候群 腎疾患をもった子どもの看護	
8	/ ()	神経疾患と看護	①看護総論 ②おもな疾患・看護 ・點頭てんかん ・熱性けいれん ・二分脊椎 ・筋ジストロフィー ・けいれんのある子どもの看護 ・脳性麻痺 ・脳性麻痺の子ども	
9	/ ()	運動器疾患と看護	①看護総論 ②おもな疾患・看護 ・先天性股関節脱臼 ・先天性内反足 ・先天性筋性斜頸 ・上腕顆上骨折 ・側弯症 ・先天性股関節脱臼の子どもの看護 ・先天性内反足の子どもの看護 ・先天性筋性斜頸の子どもの看護 ・特発性脊椎側弯症の子どもの看護 ・骨折した子どもの看護	
10	/ ()	皮膚疾患と看護	①看護総論 ②おもな疾患 ③疾患をもった子どもの看護 ・母斑を有する子どもの看護 ・アトピー性皮膚炎の子どもの看護	
	/ ()	眼科疾患と看護	①看護総論 ②おもな疾患・看護 ・眼科的検査を受ける子どもと家族の看護 ・斜頸の手術を受ける子どもと家族の看護	
	/ ()	耳鼻科疾患と看護	①看護総論 ②おもな疾患・看護 ・中耳炎の子どもの看護 ・扁桃摘出術を受ける子どもの看護	

11	/ ()	精神疾患と看護	①看護総論 ②おもな疾患・看護 ・子どもの心の反応とその特徴 ・情報収集とアセスメント ・治療法および支援方法 ③疾患をもった子どもの看護 ・発達障害/神経症圏の疾患 ・統合失調症と双極性障害・抑うつ障害群 ・その他の行動	
12	/ ()	事故・外傷	①看護総論 ・子どもの事故の特徴とその要因 ・事故防止と安全教育 ②おもな事故・外傷と看護 ・不慮の事故総論 ・頭部外傷 ・誤飲・誤嚥 ・溺水 ・熱傷 ・熱中症	
13	/ ()	演習	子どもの遊びと看護 ・年齢に合わせたプレパレーション プレパレーション作成 事例紹介	
14	/ ()	演習	プレパレーション発表	
15	/ ()	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト: 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学② (医学書院)				
備考: 病態生理に関する知識や小児看護概論、小児看護技術の学習内容を基盤に、健康障害をもつ対象者を理解し、健康状態に応じた看護の考え方を学び、臨地実習に活用できることを教授する。				

学科		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位/時間	担当教員
小児看護学方法論Ⅲ	講義・演習	2年次後期	1単位/15時間	専任教員
目的:さまざまな健康状態にある子どもと家族に対して必要な看護と子どもにとっての最善の利益とは何かを学ぶ 目標:①主な小児疾患、症状の看護について理解できる ②疾患を持つ子どもと家族の看護について理解できる ③看護過程の展開をとおして、子どもと家族の看護について理解できる				
評価方法:1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)				
1	/ ()	感染症と看護	①看護総論・子どもの看護のポイント ②おもな疾患・看護 ・麻疹 ・風疹 ・流行性耳下腺炎 ・水痘 ・突発性発疹 ・百日咳 ・猩紅熱 ・手足口病 ・リンゴ病	
2	/ ()	呼吸器疾患と看護	①看護総論 ②おもな疾患・看護 ・RSウイルス ・クループ ・肺炎の子どもの看護	
3.4	/ ()	循環器疾患と看護	①看護総論 ②おもな疾患 ・総論 ・先天性心疾患—中隔欠損、動脈管開存症、ファロー四徴症 ・川崎病 ・突然死—SIDS ・ファロー四徴症の子どもの看護 ・川崎病の子どもの看護	
5	/ ()	消化器疾患と看護	①看護総論 ②おもな疾患・看護 ・鼠径ヘルニア ・ヒルシュスプルング病 ・急性乳幼児下痢症 ・腸重積症 ・唇裂・口蓋裂・食道閉鎖症 ・肥厚性幽門狭窄症 ・鎖肛 ・胆道閉鎖症	
6・7	/ ()	看護展開 (急性期)	事例展開 川崎病を持つ子どもの看護展開	

8	/ ()	テスト		
履修者へのコメント:基礎看護学で学んだ看護過程を基礎に小児を対象として成長・発達、健康、家族の三側面 でとらえる。事例展開を通して学ぶ。				
使用テキスト:系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学② (医学書院)				
備考:臨床経験・教育経験を踏まえ、小児看護の看護過程を教授する。				

学科		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
母性看護学概論	講義	1年次後期	1単位／15時間	外部講師 専任教員
目的：母性看護の概念や現状、対象を理解し、ライフステージ各期に応じた看護実践に必要な基礎知識を習得する。 目標：①「母性」の概論を理解できる ②母性看護の変遷と現状が理解できる ③母性看護の対象を理解できる ④母子保健行政と母性に関する法律が理解できる ⑤ライフサイクルにおける女性の健康について理解できる ⑥多様な性の在り方や人権の尊重について理解が深められる				
評価方法：1. 筆記試験（90％） 2. 授業への参加態度・状況（10％） 1と2を総合的に判断する				
回	月／日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	/ ()	母性看護の基盤となる概念	①母性とは ②母子関係と家族発達 ③セクシュアリティ ④リプロダクティブヘルス／ライツ ⑤ヘルスプロモーション ⑥母性看護のあり方 ⑦母性看護における倫理 ⑧母性看護における安全・事故防止	
2	/ ()	母性看護の基盤となる概念対象を取り巻く社会の変遷と現状	①母性看護の歴史の変遷と現状 ②母性看護の対象を取り巻く環境	
3	/ ()	母性看護の対象の理解	①女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化 ②女性のライフサイクルと家族 ③母性の発達・成熟・継承	
4	/ ()	母性看護における看護技術	①母性看護における看護過程 ②情報収集・アセスメント技術 ③母性看護に使われる看護技術	
5	/ ()	女性のライフステージ各期における看護	①ライフサイクルにおける女性の健康と看護の必要性 ②思春期の健康と看護（月経異常） ③成熟期の健康と看護 ④更年期の健康と看護（更年期障害） ⑤老年期の健康と看護	
6	/ ()	リプロダクティブヘルスケア	①家族計画 ②性感染症とその予防 ③H I Vに感染した女性に対する看護 ④人工妊娠中絶と看護 ⑤喫煙女性の健康と看護 ⑥性的暴力を受けた女性に対する看護 ⑦児童虐待と看護 ⑧国際化社会と看護	
7	/ ()	外部講師講義	現在の社会情勢で問われている性の在り方や人権問題について（L G B T Q、D V、児童虐待等）	
8		テスト		
履修者へのコメント：				
使用テキスト：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学①（医学書院）				
備考：臨床経験・教育経験を踏まえ、母性看護の概要について教授する。				

学科		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
母性看護学方法論 I	講義・演習	2年次前期	1単位／30時間	専任教員
目的：妊婦前からの女性・家族への支援や、正常な妊娠経過、異常時の看護を学ぶ 目標：①非妊娠時の身体的・精神的・社会的側面を理解し、家族を含めた看護について述べるができる ②妊娠中の身体的・精神的・社会的特徴と、胎児の成長発達を理解し、健やかな妊娠生活を送るために必要な援助について述べるができる ③妊娠の異常を理解し、身体的・精神的・社会的側面から必要な看護について理解することができる				
評価方法：1.筆記試験(80%) 2.授業・演習への参加態度・状況(20%) 1と2を総合的に判断する				
回	月／日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	/ ()	子どもを産み育てることとその看護を学ぶにあたって	①子供を産み育てること ②母親になるということ ③不妊治療を受けて妊娠した妊産褥婦の姿 ④子どもを産み育てることとその看護を学ぶにあたって	
2	/ ()	出生前からのリプロダクティブヘルスケア	①リプロダクティブヘルスケアの必要性 ②遺伝相談 ③不妊治療と看護	
3	/ ()	妊娠期における看護	①妊娠期の身体的特性 ・妊娠の生理 ・胎児の発育とその生理 ・母体の生理的变化	
4	/ ()	妊娠期における看護	②妊娠期の心理・社会的特徴 ・妊婦の心理 ・妊婦と家族および社会	
5	/ ()	妊娠期における看護	③妊婦と胎児のアセスメント ・妊娠とその診断 ・妊娠期に行う検査とその目的	
6	/ ()	妊娠期における看護	③妊婦と胎児のアセスメント ・胎児の発育と健康状態の診断 ・妊婦と胎児の経過の診断とアセスメント	
7	/ ()	妊娠期における看護	④妊婦と家族の看護 ・妊婦が受ける母子保健サービス ・妊婦の保健相談 ・教育の実際	
8	/ ()	妊娠期における看護	④妊婦と家族の看護 ・妊婦の保健相談の実際 ・親になるための準備教育	
9	/ ()	妊娠の異常と看護	①ハイリスク妊娠 ②妊娠期の感染症 ③妊娠疾患	
10	/ ()	妊娠の異常と看護	④多胎妊娠 ⑤妊娠持続時間の異常 ⑥異所性妊娠(子宮外妊娠) ⑦ハイリスク妊婦の看護	
11	/ ()	演習 妊婦体験	妊婦体験から、身体的・精神的・社会的側面への影響を考える	
12	/ ()	演習 妊婦の計測 レオポルド触診法 胎児心音聴取	妊娠週数の計算 妊婦の計測：身長 体重 腹囲 子宮底長 レオポルド触診法、胎児心音の確認	
13	/ ()	グループワーク	マイナートラブルと予防法	
14	/ ()	グループワーク	地域で暮らす母子が受けられる保健サービスを考える	
15	/ ()	テスト		
履修者へのコメント：				
使用テキスト：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学②(医学書院) ウェルネス看護診断に基づく母性看護過程(医歯薬出版株式会社)				
備考：臨床経験・教育経験を踏まえ、妊娠期看護の概要・観察・技術の実際とフィジカルアセスメントを教授する。				

学科		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位/時間	担当教員
母性看護学方法論 II	講義	2年次前期	1単位/15時間	専任教員
目的：正常分娩と分娩各期の看護、異常時の看護について学ぶ				
目標：①分娩時の女性とその家族への看護を理解できる ②分娩の経過を理解できる ③分娩時の異常について理解できる				
評価方法：1.筆記試験（90%） 2.授業への参加態度・状況（10%） 1と2を総合的に判断する				
回	月/日(曜日)	授業内容	内容	
1	/ ()	分娩期における看護	①分娩の要素 ・分娩とは ・分娩の3要素 ・胎児と子宮および骨盤との関係 ・分娩の機序	
2	/ ()	分娩期における看護	②分娩の経過 ・分娩の進行と産婦の身体的変化 ・産婦の身体的変化 ・産痛 ・胎児に及ぼす影響 ・産婦の心理・社会的変化	
3	/ ()	分娩期における看護	③産婦・胎児、家族のアセスメント ・産婦と胎児の健康状態のアセスメント ・産婦と家族の心理・社会面のアセスメント ・産婦、家族における看護上の問題の明確	
4	/ ()	分娩期における看護	④産婦と家族の看護 ・看護目標と産婦のニーズ ・安全分娩への看護 ・安楽な分娩への看護 ・出産体験が肯定的になる(よいお産になる)ための看護 ・基本的ニーズに関する看護 ・家族発達を促す看護	
5	/ ()	分娩期における看護	⑤分娩期の看護の実際 ・分娩第1期の活動期(子宮口開大3～7cmまでの看護) ・分娩第1期活動期の終盤(減速期：子宮口開大7～8cm以上全開大まで) ・分娩第2期の看護 ・分娩第3～4期の看護	
6	/ ()	分娩の異常と看護	①産道の異常 ②娩出力の異常 ③胎児の異常による分娩障害 ④胎児の付属物の異常 ⑤胎児機能不全 ⑥分娩時の損傷 ⑦分娩第3期および分娩直後の異常	
7	/ ()	分娩の異常と看護	⑧分娩時異常出血 ⑨産科処置と産科手術 ⑩異常のある産婦の看護 ⑪異常分娩時の産婦の看護 ⑫分娩時異常出血のある産婦の看護	
8	/ ()	テスト		
履修者へのコメント：				
使用テキスト：系統看護学講座 専門分野II 母性看護学各論 母性看護学②(医学書院) ウェルネス看護診断に基づく母性看護過程 医歯薬出版株式会社 マタニティ診断ガイドブック				
備考：臨床経験・教育経験を踏まえ、分娩期看護の概要・観察・技術の実際とフィジカルアセスメントを教授する。				

学科		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位/時間	担当教員
母性看護学方法論 III	講義・演習	2年次後期	1単位/30時間	専任教員
目的：正常に経過する褥婦および新生児の看護、異常時の看護について学ぶ看護過程の展開および技術演習で実際に学ぶ 目標：①産褥期の女性への看護を理解できる ②早期新生児の生理的特徴と日齢に合わせた経過、看護援助を理解できる ③母性の看護過程（妊娠・分娩・産褥期）について理解できる				
評価方法：1.筆記試験(80%) 2.授業・演習への参加態度・状況(20%) 1と2を総合的に判断する				
回	月/日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	/ ()	新生児の生理	①新生児とは ②新生児の機能	
2	/ ()	新生児のアセスメント 新生児の看護	①新生児の診断 ②新生児の健康状態のアセスメント ③出生直後の看護 ④出生後から退院までの看護 ⑤生後1か月健康診査に向けた退院時の看護	
3	/ ()	新生児の異常と看護	①新生児仮死 ②分娩外傷 ③低出生体重児 ④高ビリルビン血症 ⑤新生児・乳児ビタミンK欠乏性出血症	
4	/ ()	演習 沐浴	沐浴の実際 新生児の観察の実際	
5	/ ()	産褥期における看護	①産褥経過 ・産褥期の身体的変化 ・産褥期の心理、社会的変化	
6	/ ()	産褥期における看護	②産褥期のアセスメント ・産褥経過の診断 ・褥婦の健康状態のアセスメント	
7	/ ()	産褥期における看護	③褥婦と家族の看護 ・身体機能の回復および進行性変化への看護 ・児との関係確立への看護 ・育児にかかわる看護 ・家族関係再構築への看護	
8	/ ()	産褥期の看護	④施設退院後の看護 ・育児不安と育児支援 ・職場復帰	
9	/ ()	産褥の異常と看護	①子宮復古不全 ②産褥期の発熱 ③産褥血栓症 ④精神障害 ⑤異常のある褥婦の看護	
10	/ ()	演習 子宮復古状態	子宮底・悪露の観察の実際	
11	/ ()	看護過程の展開	妊娠期の看護過程	
12	/ ()	看護過程の展開	分娩期の看護過程	
13	/ ()	看護過程の展開	産褥期の看護過程 褥婦	
14	/ ()	看護過程の展開	産褥期の看護過程 新生児	
15	/ ()	テスト		
履修者へのコメント：				
使用テキスト：系統看護学講座 専門分野II 母性看護学各論 母性看護学② (医学書院) ウェルネス看護診断に基づく母性看護過程 (医歯薬出版株式会社)				
備考：備考：臨床経験・教育経験を踏まえ、産褥期看護の概要・観察・技術の実際とフィジカルアセスメントを教授する。看護過程を教授する。				

授業科目名の区分	第一学科			
授業科目名	内訳	開講時期	単位/時間	担当教員
精神看護学概論	講義	1年次後期	1単位/15時間	専任教員
目的: ① 心(精神)の健康について脳科学や精神力動理論、成長発達、社会・環境との関連など広い視野で学ぶ ② 精神保健医療福祉に関する法律・制度の歴史的な変遷を学ぶ ③ 人権尊重・権利擁護、リハビリについて理解し、精神看護実践の基礎となる考え方や態度を養う 目標: ① ライフサイクルの各期に起こりやすい精神健康上の問題について説明できる ② 現代社会に精神保健上の主な問題と社会・環境との関係について考察できる ③ 看護師としての基本的姿勢や自らを自己洞察する力を養う				
評価方法: 1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)				
回	月/日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	/ ()	精神看護で学ぶこと	心の健康とは、心のケアと現代社会 心のとらえ方(脳機能、防衛機制)	
2	/ ()	精神看護で学ぶこと	心の発達(対人関係・環境、ライフサイクルとメンタルヘルス)	
3	/ ()	精神看護で学ぶこと	ストレス・コーピング、危機理論	
4	/ ()	精神看護で学ぶこと	リエゾン精神看護	
5	/ ()	精神保健の考え方	メンタルヘルスの諸問題とそのアプローチ	
6	/ ()	社会のなかの精神障害	精神医療の歴史	
7	/ ()	社会のなかの精神障害	権利擁護と患者の権利	
8	/ ()	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト: 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学① (医学書院)				
備考: 看護経験や教育経験を踏まえ、心(精神)の健康について、脳の構造・機能や精神力動理論を教授				

学科		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
精神看護学方法論 I	講義	2年次前期	1単位／15時間	外部講師
目的: 精神障害の診断と分類について学び、精神科における治療について学習する 目標: 精神疾患の症状、病態、治療方法を理解する				
評価方法: 1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%) 1と2を総合的に判断する				
回	月/日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	/ ()	関係のなかの人間	全体としての家族	
2	/ ()	関係のなかの人間	人間と集団	
3	/ ()	精神科で出会う人々	精神を病むことと生きること	
4	/ ()			
5	/ ()	精神科で出会う人々	精神症状論と状態像	
6	/ ()			
7	/ ()	精神科で出会う人々	精神障害の診断と分類	
8	/ ()	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト: 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学① (医学書院)				
備考: 臨床経験・教育経験を踏まえ、看護の概要を教授する。				

学科		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
精神看護学方法論Ⅱ	講義	2年次前期	1単位／30時間	外部講師
目的:自分と相手が看護の基本であり、入院環境を整える必要性を学ぶ				
目標:人間関係を土台に精神看護の果たす役割が理解できる				
評価方法:1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%) 1と2を総合的に判断する				
回	月／日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	/ ()	精神科での治療	1)精神科における治療 2)薬物療法・電気けいれん療法 3)精神療法 4)環境療法・社会療法	
2	/ ()	ケアの人間関係	1)ケアの前提 2)ケアの原則 3)ケアの方法	
3	/ ()	ケアの人間関係	関係をアセスメントする	
4	/ ()	ケアの人間関係	患者－看護師関係でおこること	
5	/ ()	ケアの人間関係	対処のむずかしい場面	
6	/ ()	ケアの人間関係	医療の場のダイナミクス	
7	/ ()	回復を助ける	1)回復の意味 2)入院治療の目的と意味	
8	/ ()	回復を助ける	治療的環境をつくる	
9	/ ()	安全を守る	リスクマネジメントの考え方と方法	
10	/ ()	安全を守る	1)緊急事態に対処する 2)院内を中心とした災害時のケア	
11	/ ()	身体をケアする	精神科における身体のケア	
12	/ ()	身体をケアする	1)身体にあらわれる心の痛み 2)精神科の治療と身体ケア	
13	/ ()	身体をケアする	1)日常から気をつけておきたい身体合併症 2)精神科における身体のケアの実際	
14	/ ()	身体をケアする	1)睡眠の援助 2)身体の問題へのグループアプローチ	
15	/ ()	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト:系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学② (医学書院)				
備考:臨床経験・教育経験を踏まえ、精神科での治療や看護の基本となる入院環境を教授する。				

学科		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位/時間	担当教員
精神看護学方法論Ⅲ	講義	2年次後期	1単位/30時間	外部講師 専任教員
目的:精神障害者が地域で生活を継続するための社会制度や支援について学ぶ 目標:精神障害者の社会復帰、地域との結びつき、重要性について理解できる				
評価方法:1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%) 1と2を総合的に判断する				
回	月/日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	/ ()	サバイバーとしての患者とそのケア	受け入れがたい行動を示す患者たち 心的外傷への着目	
2	/ ()	地域における精神保健と精神看護	精神障害をもちながら地域で暮らす人を支える	
3	/ ()	地域における精神保健と精神看護	地域で生活するための原則	
4	/ ()	地域における精神保健と精神看護	生活を支えるための社会資源・サービス	
5	/ ()	地域における精神保健と精神看護	地域での看護の実際 就労支援事業所見学	
6	/ ()	リエゾン精神看護	身体疾患をもつ患者の精神保健	
7	/ ()	リエゾン精神看護	1)リエゾン精神看護とその活動 2)リエゾナーズの活動の実際	
8	/ ()	看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス	1)看護師の精神的健康への支援 2)看護師の感情ワーク 3)看護師における共感の光と影	
9	/ ()	看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス	1)看護師の不安と防衛 2)感情労働としての看護 3)感情労働の代償と社会	
10	/ ()	プロセスレコード	プロセスレコードを実際に書こう	
11	/ ()	看護過程	事例の分析・解釈①	
12	/ ()	看護過程	分析・解釈② 看護問題立案①	
13	/ ()	看護過程	分析解釈③ 看護問題立案②	
14	/ ()	看護過程	看護過程振り返り	
15	/ ()	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト:系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学① (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学② (医学書院)				
備考: 臨床経験・教育経験を踏まえ、社会復帰と地域社会の関連を教授する。				

授業科目名の区分				
授業科目名	内訳	開講時期	単位/時間	担当教員
看護倫理・看護管理	講義	3年次	1単位/30時間	外部講師 専任教員
目的:看護の対象を取り巻くあらゆる資源を活用し、対象者に質の高い看護を提供するための仕組みや看護管理について学ぶ 目標:①生活体験の中で培ってきた自己の倫理的感受性を養う ②対象に安全で安楽な看護実践を提供するための看護管理の基本を理解する ③組織の一員として必要な医療情報の取り扱いや管理上の諸問題について理解する				
評価方法:1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%) 1と2を総合的に判断する				
回	月/日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	/ ()	生命倫理	倫理学の基本的な考え方 ①倫理とはなにか ②倫理理論	
2	/ ()	生命倫理	生命倫理 ①生命倫理とはなにか ②生命倫原則・規則 ③インフォームドコンセント ④守秘義務・個人情報保護	
3	/ ()	看護倫理	看護倫理とはなにか ①看護倫理を学ぶ意義 ②看護倫理の歴史 ③看護の倫理原則 ④看護実践上の倫理的概要 ⑤看護実践と倫理	
4	/ ()	専門職の倫理	①社会からみた看護 ②専門職に求められる倫理 ③専門職の倫理綱領	
5	/ ()	専門職の倫理	④看護業務と倫理実践 ⑤保健師助産師看護師法と倫理	
6	/ ()	看護とマネジメント	①看護管理とは ②マネジメントとは ③看護におけるマネジメント	
7	/ ()	看護ケアのマネジメント	①看護ケアのマネジメントと看護職の機能 ②患者の権利の尊重	
8	/ ()	看護ケアのマネジメント	③安全管理 ④チーム医療 ⑤看護業務の実践	
9	/ ()	看護サービスのマネジメント	①看護サービスのマネジメント ②組織目的達成のマネジメント ③看護サービス提供のしくみづくり ④人材のマネジメント	
10	/ ()	看護サービスのマネジメント	⑤施設・設備環境のマネジメント ⑥物品のマネジメント ⑦情報のマネジメント ⑧組織におけるリスクマネジメント ⑨サービス評価	
11	/ ()	看護を取り巻く諸制度	①看護の定義 ②看護職	
12	/ ()	看護を取り巻く諸制度	③看護実践の領域と場 ④医療制度	
13	/ ()	マネジメントに必要な知識と技術	①組織とマネジメント ②リーダーシップとマネジメント	
14	/ ()	マネジメントに必要な知識と技術	③組織の調整 ④組織と個人	
15	/ ()	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト:系統看護学講座 統合分野 看護管理 看護の統合と実践① (医学書院) 系統看護学講座 別巻 看護倫理 (医学書院)				
備考:臨床で看護師が「患者の権利」「看護師自身の権利」をめぐって倫理的なジレンマの正体を明らかにしながら、看護管理・倫理の視点で、看護師が、看護管理者が、解決に向けてよりよい判断や行動ができるようなヒントを教授する。				

授業科目名の区分		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位/時間	担当教員
看護マネジメント	講義・演習	3年次前期	1単位/30時間	外部講師
目的:医療安全の基本的な考え方を学び、事故防止の実際を学ぶ 目標:①生命の危機状態にある対象者・家族の特徴を理解する ②看護活動の中でマナーの役割を理解する				
評価方法:1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%) 1と2を総合的に判断する				
回	月/日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	/ ()	1. 医療安全とは 2. 事故防止の考え方	①看護事故の構造 ②看護事故防止の考え方 ③KYT事例から危険回避を学ぶ	
2	/ ()	診療の補助の事故防止(I)	①業務特注から見た患者に投与 ②注射業務と事故防止 インシデントレポートからの学び	
3	/ ()	診療の補助時の事故防止(II)	①ポンプ注入の事故防止 ②輸液業務・内服薬の事故防止 ③経管栄養の事故防止	
4	/ ()	療養の世話時の事故防止	①チューブ管理と事故防止 ②転倒・転落、窒息・誤嚥・入浴中の事故防止	
5	/ ()	1. 業務領域をこえて共通する間違いと発生要因 2. 医療安全とコミュニケーション	①危険な思い込みと行動パターン ②医療安全とコミュニケーション ③院内感染対策・事故防止	
6	/ ()	1. 看護師の労働安全衛生上の事故防止 2. 医療安全対策の国内外の潮流	①業務感染・抗がん剤の曝露・院内暴力 他 ②組織としての医療安全対策	
7	/ ()	演習	感染防止対策	
8	/ ()	演習	看護師が関与した医療事故	
9	/ ()	演習	環境・勤務体制・教育研修	
10	/ ()	演習	ヒューマンエラーと法則	
11	/ ()	演習	医療安全に対する動向と考え	
12	/ ()	演習	マネジメントに必要な知識と技術	
13	/ ()	事例検討	チームでとらえる医療事故について	
14	/ ()	まとめ	看護マネジメント論総まとめ	
15	/ ()	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト:系統看護学講座 統合分野 医療安全 看護の統合と実践② (医学書院) 看護学テキスト:統合と実践 看護管理 (学研)				
備考: 臨床経験・教育経験を踏まえ、医療安全の概要について教授する。				

授業科目名の区分		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位/時間	担当教員
災害看護・国際看護	講義	3年次前期	1単位/30時間	外部講師
目的: 国際看護の基礎知識と看護師の役割を学ぶ 災害が人々の心身に及ぼす影響と災害看護の役割を学ぶ 目標: ①国際救助と開発協力における看護師の役割を学ぶ ②災害看護の役割を理解する				
評価方法: 1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%) 1と2を総合的に判断する				
回	月/日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	/ ()	国際看護学とは	世界の健康問題の現状 ①人口②地球規模の保健指導③三大感染症④地球温暖化⑤長期化する武力抵抗	
2	/ ()	国際看護の定義	国際看護の定義、国際看護学の対象、 ①災害・紛争被害者・開発途上国に住む人々 ②在留外国人 ③在外日本人④帰国日本人	
3	/ ()	国際看護学に関連する基礎知識	①国際協力 ②開発 ③国際救助 ④国際救助の在り方 ⑤国際救助の在り方⑤国際人権法と国際人道法	
4	/ ()	看護師の国際組織	文化を考慮した看護、看護師の国際組織と国際的な移動①国際看護師協会(ICN)②諸外国の看護制度	
5	/ ()	グローバルヘルス	①インターナショナルからグローバルヘルスへ②プライマリーヘルスとヘルスプロモーション③人間の安全保障④ミレニアム開発目標⑤UHC	
6	/ ()	国際協力のしくみと看護師の役割	①国際救助・保健医療機関、国連機関、政府機関、国際赤十字、国際NGO ②開発協力	
7	/ ()	災害看護学	①災害看護の歩み ②災害医療の基礎知識	
8	/ ()	災害看護学	③災害サイクルに応じた活動現場の災害看護	
9	/ ()	災害看護学	④被災者特性に応じた災害看護の展開	
10	/ ()	災害看護学	⑤災害と心のケア	
11	/ ()	地震災害看護の展開	①発災直後から出動までの看護 ②急性期の看護	
12	/ ()	地震災害看護の展開	③亜急性期の看護 ④慢性期・復興期の看護	
13	/ ()	【国際看護】	①国際看護とは ②グローバルヘルス ③国際協力のしくみ ④文化を考慮した看護 ⑤国際看護活動の展開過程 ⑥開発協力と看護 ⑦国際救援と看護	
14	/ ()	災害看護学・国際看護学における倫理・教育・研究	①災害看護学における倫理・教育・研究 ②国際看護学における倫理・教育・研究	
15	/ ()	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト: 系統看護学講座 統合分野 医療安全 看護の統合と実践② (医学書院) 系統看護学講座 統合分野 災害看護・国際看護 看護の統合と実践③ (医学書院)				
備考: 臨床経験・教育経験を踏まえ、国際看護と災害看護の概要について教授する。				

授業科目名の区分		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位/時間	担当教員
看護の統合と実践 I	講義・演習	3年次前期・後期	1単位/30時間	専任教員
目的:看護研究の目的・方法・研究過程・研究計画など、看護研究の基礎を学ぶ 目標:①看護研究テーマを明確にし、研究を実践・発表するための手法と過程を理解する				
評価方法:1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%) 1と2を総合的に判断する				
回	月/日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	/ ()	看護研究とは 看護研究のプロセス	①看護研究の意義②研究のエビデンスレベル③研究テーマの決め方④研究計画立案⑤看護研究の倫理的配慮⑥看護研究の進め方	
2	/ ()	看護研究の倫理	①研究倫理とは②看護研究の各段階における研究倫理③研究方法別の倫理的配慮④チェックリスト	
3	/ ()	文献検索とクリティーク 看護研究のデザイン データの分析と尺度開発 論文・抄録の書き方	①文献検索②論文のクリティーク③研究デザイン④量的研究⑤質的研究 ①データの分析② 尺度開発③論文・抄録の考え方	
4	/ ()	看護研究の実際	計画をもとに看護研究の実際	
5	/ ()	看護研究の実際	計画をもとに看護研究の実際	
6	/ ()	看護研究の実際	計画をもとに看護研究の実際	
7	/ ()	看護研究の実際	計画をもとに看護研究の実際	
8	/ ()	看護研究の実際	計画をもとに看護研究の実際	
9	/ ()	看護研究の実際	計画をもとに看護研究の実際	
10	/ ()	看護研究の実際	計画をもとに看護研究の実際	
11	/ ()	看護研究の実際	計画をもとに看護研究の実際	
12	/ ()	看護研究の実際	計画をもとに看護研究の実際	
13	/ ()	看護研究の実際	計画をもとに看護研究の実際	
14	/ ()	発表		
15	/ ()			
履修者へのコメント:				
使用テキスト:基本がわかる看護研究 ビギナーズNOTE改訂《第2版》				
備考:臨床経験・教育経験を踏まえ、生涯にわたり自己研鑽を続け看護を追及する心構えができるよう教授する。				

授業科目名の区分		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位/時間	担当教員
看護の統合と実践Ⅱ	講義・演習	3年次前期・後期	1単位/30時間	専任教員
目的: 自らの看護技術向上のための学習方法を見出し、生涯にわたり自己研鑽を続け看護を迫及する心構えができる 目標: ①既習の看護技術を振り返り臨床実践に近い形で学習できる ②卒後の臨床現場にスムーズに適応することができることを目的とする ③根拠に基づく看護技術を選択・統合させる確に実践				
評価方法: 1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%) 1と2を総合的に判断する				
回	月/日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	/ ()	病院・病棟で提供する看護サービスについて	・仕事の目的・優先順位の判断と計画・看護師の行動・安全な看護提供とチームメンバーとの連携	
2	/ ()	複数患者の間のケアの計画立案	複数患者の事例に対する行動計画の立案・行動計画内容	
3	/ ()	安全な看護の提供とチームメンバーとの連携	情報共有の必要性和方法(例:SBER)	
4	/ ()	優先順位・突発事態への対応	安全性・安楽性・自立・効率性	
5	/ ()	複数患者への看護実践	経管栄養 呼吸・循環を整える技術(口腔・気管内吸引)	
6	/ ()	演習	呼吸・循環を整える技術 (口腔内吸引・気管内吸引)	
7	/ ()			
8	/ ()	演習	点滴中の患者の清潔援助	
9	/ ()			
10	/ ()	演習	・輸液ポンプの操作 ・シリンジポンプの操作	
11	/ ()			
12	/ ()	突発事態への対応の実践	状況を踏まえた行動計画立案・実施	
13	/ ()			
14	/ ()	総まとめ	自己の振り返り・評価	
15	/ ()	テスト(筆記・技術)	総合技術テスト	
履修者へのコメント:				
使用テキスト: 系統看護学講座 統合分野 (医学書院)				
備考: 臨床経験・教育経験を踏まえ、生涯にわたり自己研鑽を続け看護を迫及する心構えができるよう教授する。				

学科		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位/時間	担当教員
知識の統合	講義	3年次前期・後期	1単位/30時間	専任教員
目的: 自らの看護知識向上のための学習方法を見出し、生涯にわたり自己研鑽を続け看護を追及する心構えができる 目標: ①既習の学習を振り返り統合して看護師としてまとめの学習できる ②卒後の臨床現場にスムーズに適応する知識を得ることができる。 ③根拠に基づく看護の知識を統合させ必要な基準を到達することができる。				
評価方法: 1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%) 1と2を総合的に判断する				
回	月/日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	/ ()	解剖生理(1)	人体の構造と機能について総復習	
2	/ ()	解剖生理(2)	問題事例に合わせた学習	
3	/ ()	疾病と治療・看護(1)	検査・薬理を含めて疾病の治療・看護	
4	/ ()	疾病と治療・看護(2)	検査・薬理を含めて疾病の治療・看護	
5	/ ()	疾病と治療・看護(3)	検査・薬理を含めて治療・看護	
6	/ ()	基礎看護学	知識の総まとめと問題事例の学習	
7	/ ()	成人看護学	検査・薬理を含めて疾病の治療と看護	
8	/ ()	老年看護学	検査・薬理を含めて疾病の治療と看護	
9	/ ()	精神看護学	検査・薬理を含めて疾病の治療と看護	
10	/ ()	小児看護学	検査・薬理を含めて疾病の治療と看護	
11	/ ()	母性看護学	検査・薬理を含めて疾病の治療と看護	
12	/ ()	社会情勢・動向・災害看護	問題事例に合わせた学習	
13	/ ()	関係法規・社会福祉	問題事例に合わせた学習	
14	/ ()	地域・在宅看護論	問題事例に合わせた学習	
15	/ ()	テスト	国家試験に準じた時間と内容で評価する	
履修者へのコメント:				
使用テキスト: 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I 基礎看護学② (医学書院) ; 系統看護学講座 専門基礎分野 専門分野 (医学書院)				
備考: 臨床経験を踏まえ、対象の状態を的確に判断する能力、看護援助の知識について教授する。				